新和歌類句集十五

第二句
五代集
後恵主須

特別
イ4
3163
22(15)

貴
14
3163
22(15)

宝玉

新和謌類句集

五

新千
五十

おもしろ
ものに

宝玉

い

新後古 五一
いとゝ神よりもたゞくもおぼしなやまるゝ　枝中納言雅通

彩千 冬
伊勢のあまの　いわゐの玉やあらそふらんこゝにはなれぬ　前大僧正慈円

風 賀
しゐ海　いわ色の玉もうたくよむわとてぬるわかゆく波　冷泉前太政大臣

同 雜上
ゝりせと　いとゝて月はふきてこゝろはのこりぬけり　前大納言尊氏

同 秋下
入あいは　いとゝれもくにいと哀そめて雲よいれるそ苦　同

彩續古 ゝ下
まれれ　いとゝれなのふこゝる花のゝとして者ゝ人うれ者　赤門院製

風 冬
まれれ　いとゝれなのふしてゝ心つくさてけに苦者てなわ　後倉石大臣

同 冬
ゆきまに　いとゝもいくふかはるゝ月とはいと書にもあるゝ　民部卿為定

新後拾 炑下
たゝこゝれ　いと冬みのとゝ川波ふや八重さゝ花乃たゝなれん　枝大納言實世

彩拾 四
ごにゝゝよ　いとゝはいとゝもゝとゝちはのゝ山の後しあるゝ宗　坂上大嬢

彩續古 冬
ゆく初ゝ　いとゝはゝとゝせてゝ梅乃心枝れ梅の書ゝてゝれ　藤式雅信

同 五三
ゝとゝ別といくゝとゝゝ初きゝあるゝとゝしゝ　小槻匡遠

新後拾 炑三
たゝわゝ　いとゝや又はふ事ゝとゝはゝゝ　前中納言基成

新後古 炑下
いゝゝゝ　いとゝゝゝて後乃葉風ゝゝもゝゝゝゝの炑　後京極摂政太政大臣

彩拾 炑上
飛海ゝ　いとゝふゝゝ花ゝ花ゝゝゝゝゝゝゝ出てまれゝゝゝ　上西門院兵衛

彩千 雜歌
ゝゝゝに　いとゝゝたゝゝの行ゝ舟ゝてゝゝゝゝゝゝゝゝ　源仲經

彩續古 長
ゝゝこゝゝ　いとゝゝゝゝゝ世事にゝゝゝゝゝゝゝゝ我身ゝゝゝゝゝゝ　和泉式部

彩拾 炑五
ゝゝゝて　いとゝのゝゝゝゝゝゝゝゝ

新千 雜中
いつしか月
いとゝみさびよりけるあえて月のこゝろぞ深地　後三條院御製

風 雜中
さ夜ふけて
いとゝ白いまる橋の戸ぬいわさゝ入月てさしき　前関白光平

新拾 立四
かふとも
いとゝ生てやあわ雪のさはりとゝらん　源頼之朝臣

風 立三
ゆゝしく
いとゝいつかるこゝの葉の我さゝりしさいをふん　前大納言實兼卿

新拾 立三
天まもいく
いとゝいつかる俤もいく夜ぬやゝ戸のこゝの月　異法師

新千 立一
立しさに
いとゝいて人三れをとゝいとゝおもい出るか　清慎公

風 立一
かきれし
いとゝいまゝそしたなたるこゝの中より思出にして　平宗宣朝臣

新拾 雜上
月まゝと
いとゝいつゝ俤の山ゝやゆゝしのそ　後二條院御製

風 立一
我ハおい
いとゝ三かていとゝ山れるさ世の契なれるわ　太上天皇

新千 立一
寄う海
いとゝいゝ人しゝとゝこゝはゝむいわとたのむ中の小　知法三寶院前大僧正

同 釋
ゝゝわゝこ
いとゝてこゝかゝたゝにゝゝとゝとゝのゝたゝこ　前權僧正義圓

新後拾 雜下
さゝれて
いとゝてゝゝい心橋ゝかゝれゝゝゝゝゝゝこゝはゝん　法下源全

新千 雜下
ゝゝの
いとゝにそゝこけるゝゝゝゝゝゝ

風 立四
彰千 親中
彰徳吾 覇
同 立二
彰後拾 藤
風 親中
彰千 親中
彰拾 尺
彰徳吾 尺
新後拾 立五
風 立五
彰拾 賀

はるかみやこをたちてのち人〳〵そでをながめ
いとわびさせてほとゝぎすの月をみるに
いとわやかなん里きゝのけちの若人さもしろ
なをけきつゝ
いとわやさ初人あり〳〵ものをおもふ
なけそ又
いとわやりんもそう月よなかりけれ
はるくゝ
いとわきく夜の雨おもをぬりをやむさへ
ゝこそ
いとわこゝの月新しさしりとたまりそ
よりのの
いとゝもとゝもとゝ九三ゝまてされつゝ
うるふ
いとゝこゝあはれ世はさしをかれ
はゝ
いとゝすゝそ元ゝまゝいて三ゝ
いそれ
いとゝ手れ人〳〵そかく立しうれ
見る君は
いとゝかゝみと見ゝなりて多代はへ

院御歌
菊大納言為世
梅宮院御歌 門人
明魏法師
藤原定家
儀子内親王
柏秀房
為宣上人
明魏法師
歌人不知
二條院御歌
松大納言義詮

彰後拾 立五
彰後拾 立五
彰後拾 立二
彰千 親上
風 立五
同 立二
彰千 覇
同 秋上
彰後拾 林
彰拾 衰傷
彰拾 親上
風 林

うるはしかる
はるとそ
かれるを
夜ゝ
はるゝん
うれしを
ゝえ花を
あまの川
月を
なんて世
霜もを
ゝを

いとゝこゝとゝゝかゝしゝゝ國の
いとゝうみんとゝりゝるゝはゝゝ
いとゝみゝれゝあゝゝまゝゝて立ゝ
いとゝもたゝとゝゝゝ
いとゝこゝをゝたゝゝゝ
いとゝゝゝやゝゝゝゝゝゝ
いとゝみゝゝゝゝゝゝ
いとゝ夜ゝゝゝれゝゝゝゝ
いとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いとゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いとゝ夜ゝゝゝゝゝゝゝ

四条宮中将
伏見院御歌
為京秀茂
菊大納言為世
相模
永福門院
為京行朝
菊大納言為定
菩提院殿 大内
花園院御製
歌人不知
後光明院 菊間鬼金花

彩後 神

神おさや いと夜の明るまめなれば年をとりて代をいはる日 法眼禅厳

彩抜 五三

見しれ いと夜の内ねしねぬ枕人へそかわにおきいなんとも 関白兼実

彩千 五三

あらきを あと夜の内の雪わけいれるやはくさん 伏見院 正和

彩抜 五四

うしこみ いと夜の雪はなおうわにさめゆきこしておりて 花園院製

彩後 霧

ゆられて いと夜やとうの明るのよなにと風の床ゆるん 後鳥羽院 下野

風 五四

かなぶふ いとうけふしそかりしれはるみしたふの内にたとふ 儀子内親王

彩後 親上

なやは いたたあれうちそなれあさうの妹の踏ふよと 後花園製

同 五三

ものおもふ いとたはあれうちそなれ世よはちふいそちきりをん 二条院讃岐 参

彩抜 足

うわかも いとの入の内にふれはは三ちうしぬうわ 前大僧正公円 隆

風 新下

をを嘉 いとの内ちにたむしをへ物しやみし物へよきの人 法空上人

同 冬

野も山を いとの内ちにたむ高ちうをそれ初あけ境 仁和寺宮入道 前大政大臣

彩千 新中

ひとへ いとの内ちれの内ちなれ○きしてしとこ我ちうか 前中納言 宣明

風 夏

あとの川 いとの内ちとやなのわわんなせはとの宵毎の内 権中納言 雅

彩抜 足

三寿を いとりちとこりの内の境そ直よりたなれ 慈円大僧正

彩千 新

なるれた いとりてよりこりの内の数なるの祝しそ分る 平泰時朝臣

彩後 新

はるれた いとりてよりこりの内ちなる祝そ分れ 前内大臣 實

新抜 文

ひてうた いとりてうわ部ちたるうわ内一こちそうれ 関白前太政大臣

風 新中

うの祝を いとの内風の夜こうて内毎内の内毎内の内毎内 伏見院 正和

同 五一

くくうん いとなれ望よ時るるいるるくこ点分ゆるしそ 前右近衛将 道綱母

彩千 後下

ものこの いとしてる村毎内あとい毎内の内の乗してい 已忌院 前参議 右大臣

彩後 後上

おうの内 いとしてきうきいて毎○くをそれ祝ふ 桜町中納言 花園

彩抜 文

ゆゆれ いとしてきき嘉ちうて出ちそれ祝風うふく 備前国守

彩後 五四

ちうして いと内今のふるきふ毎きふ毎ちうやれのこ毎ん 二条院讃岐 文明

彩子 ちうと

ちうわれん いとのちの内ちれ嘉かはるるれ心とと 東大寺文殊 後後

同 五四
新拾 五四
新後古 五五
同 五八
新千 五四
同 五七
新続古 五四
同 五七
新千 雜下
新拾 旋頭
新後古 離
風 五五

いくそたび　いのちのうれをんてはしもとしてなれしたる　廣義公
うれしたる　いとの緒りはあさちふよ秋のはしめ　左兵衛督 長氏
物えても　いとの緒りそうわたる雁かねの山ちのつさ　前左兵衛督 教定
後もつは　いとの緒りれていとはなるとてあんたのこなよ　皇后宮義重
はてあれ　いとの緒りれぬるふはよつけても袖のあをはて　権僧正深守
かなうへ　いとの緒りれ行ましもうてちつめやるのこみうん　従三位友子
ゝ月乃　いとの緒りしたつ袖よ秋いはまてとのこる命とて　勝定院贈 改名
くこゝわ　いとのくもしろ色抜といそいつの山ゆきの色ちん　賀茂保憲
おてて枝く　いとのくこゝかう衣てもおもさまてそちはつとくこん　太門名大夫
さとわ　いとのちにありはやこゝはあよつて清水の　源有長卿 上の名
我よはつ　いとのあむしちあなたしのあて世ふこゝかれて　冷泉院製
ちれしれ　いとのあとめふなてていけるはれ年月そうれ　前大納言氏

新後拾 ちちの上
新後古 文
新千 雜中
新拾 冬
新千 雜二
同 五六
風 五四
同 五四
新拾 五三
新千 雜中
同 衰
風 五一

ゆめ　いのの玉章はなたてこにあるるはうあれ　中務卿宮 親王
ちの　いのためとや時るあるをはの月よなくこん　左兵衛督 雅
うれ　いのゆめてとおもはは行き世にあるすこあ　左兵衛督 義
うれ　いの袖ちもあれてやふ袖をふん　皇太后宮 女後
いはて　いのはてさにはこんあ武玉はしの思よこて　権大納言 雅
うつて　いのはてそのまま流こるみはれはけ　御製
ちは　いのはてさし玉てさ花前みはは我ちとか　従二位為子
ちは　いのちもうちはてき玉ちは　永福門院
まれ　いのゆみこもやちこあふ京て袖はれはこり　左京大夫 基世
在中乃　いのうれ人乃のろにはてこのはれはと玉れ　左近中将 教経
さくあ　いのうれ世ちこてみし風乃世ちるあ乃白雲　前大納言 為氏
あちき　いのうれ若ちこゆてはいは我年ちいとあるれ　後伏見院 四十

新後古 立一
いかなる人か
源光国

風 立一
さすらふ
いかなる人か
命なり秋

新後古 霸
雲井
いかなる人か
あふせを
徽安門院御

新千 文
せりかはの
いかなる人か
月にみて
嘉元百首

新後古 立五
四とも
いかなる人か
氷にもえて
雲のけとなりぬ

風 文
なるもの
いかなる人か
秋のもの
京極為兼

新後古 立五
いくらも
いかなる人か
ふるとしの
為兼

同 立一
こしぬれば
いかなる人か
秋のもの
祝部成茂

新後拾 立五
くるるに
いかなる人か
なりてはの
寺持院殿

同 新中
ちるかの
いかなる人か
秋のもの
源義忠朝臣

同 立四
うたかの
いかなる人か
白雲の
後嵯峨院御

新後拾 立四
ぬるさの
いかなる人か
海の色
後嵯峨院

月 釋
いにしへの
いかなる人か
なりにしそ
賢瑜上人

新千 釋
もるく
いかなる人か
川の
信西賢寺

新拾 立二
うしとは
いかなる人か
秋の
祝部成茂

風 新下
むすこれ
いかなる人か
なりにし
高弁上人

新後古 立五
あるこそ
いかなる人か
水とは
常磐井入道

同 立二
見ぬうま
いかなる人か
なりにし
平親清

風 立四
かなりたり
いかなる人か
秋のもの
永福門院

同 立四
さるめなし
いかなる人か
なりにし
二条為親

新拾 立二
もるこの
いかなる人か
秋のもの
大宮公有

新千 立五
見れなし
いかなる人か
秋のもの
後京極殿

新後拾 立五
うかりつる
いかなる人か
秋のもの
祝部成茂

新千 立四
ちるれか
いかなる人か
なりにし
寺持院殿

新後拾 五二
新続古 五五
同 五四
新後拾 雜下
新続古 五五
新拾 五四
新拾 雜二
風 五一
新長 慶
風 雜下
新続古 夏
新拾 五二

ちはやふる神もなりけりとも　同

ふるのかみのうれをいうつゝ　拾遺後撰物

ふるのかみのうれをやいもせの山　為忠後撰物

ふるのかみのさゝこしみちのれ　源滿元物語

ふるのかみ　後醍醐院御製

ふるのかみやよとせ妹のうゑ月　後京極殿

ふるのかみ妹風ふきてなけまよ　花園院

ふるのかみ妹風ふたのこゝろになれぬるか　前参議宗家

ふるのかみとれぬ袖のなみだ　法眼経賢

ふるのかみ　後醍醐院御内侍

ふるのかやうれぬ朝日のうゝりなけまし　宰相中将

ふるのかもとれぬ袖のなみだ　四条后宮更衣

ふるのかもはるまとなれそむる夜まの一こゑ　寂蓮法師

ふるのかもちぬ世よちぎれそていたゆん　為冬朝臣

新続古 五一
風 雜下
同 補
同 雜中
新拾 雜諧
新続古 離
風 五四
新千 羇旅
新拾 雜上
新続古 五三
風 五二
新拾 五三

うゑ　法下実性

ふるのかもちぬ世よちぎれそていたゆん　院四条

ふるのあるしなれぬ世はとゝまりて夏しるし　春日大明神

ふるのあるしいまはいふもおろかなる世　前内大臣

ふるのいさゝ川なれもなりてゆくすゑ　中務卿宮

ふるゝもなれぬ心里にいりうつるこの夜　前大納言

ふるゝやかゝるあるゝ浪ねなくめかりて　隆房

ふるゝやいかなる人ぞ我かゝるあるもの為し　冷泉

ふるゝやうくるなれぬるこゝろ　頼人不知

ふるゝやみのうちにたけみにたいむ井て袖水　前大納言俊平

ふるもなるふるとも思ひたとへやみ松ゝるゝ衣ハ　曽祢好忠

ふるもちぬよ　後醍醐院御製

ふるもち若しておゝうの月ゝりをみあ秋ぬ　覆皇太后宮大夫

ふるもとにかゝるふるとやいく　花園院御製

彩絵古 立二
これ世ふ　いとまなと立けしらん世をおもふ我せこをみ須し　高田女
彩千 新上
うわよふ　いとこそこそ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ　藤原雅朝
彩松 妹上
ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ　菅原孝標
彩絵 新上
心ねこそみ　いとこそこそ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ　後鳥羽院御製
同 立五
い尾ふ　いとこそこそ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ　法下宮内
同 新中
心ねこそみ　いとこそこそ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ　藤原定家
風 立二
うわりけ　いとこそこそ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ　後鳥羽院
彩千 姫方名号
あ〇ふ　いとこそこそ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ　藤原雅経
同 新下
ちの　いとこそこそ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ　後大僧正道意
風 立二
ける　いとこそこそ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ　光福寺殿内大臣女
彩絵 新中
ふ　いとこそこそ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ　二条院讃岐
同 立三
うしかな　いとこそこそ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ　後鳥羽院御製

彩千 立二
ふ　いとこそこそ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ　法性寺入道前関白太政大臣
風 立一
うしけ　いとこそこそ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ　後鳥羽院御製
彩千 冬
ける　いとこそこそ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ　藤原定家朝臣
彩千 新上
あさ　いとこそこそ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ　二条院讃岐
風 立二
たの　いとこそこそ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ　藤原為家朝臣
彩松 立五
うむ　いとこそこそ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ　定暁法師
彩松 立四
ふ　いとこそこそ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ　後鳥羽院御製
彩絵古 立一
ける　いとこそこそ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ　後光明峯院
彩千 新上
我すめ　いとこそこそ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ　後宇多院御製
彩松 立三
大井川　いとこそこそ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ　馬内侍
新松 旋
ゆるさ　いとこそこそ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ　後人不知
彩絵古 立一
こそし又　いとこそこそ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ〇ふ　正三位家隆

新千 霧
新拾 雲下
新続古 雲上
同 雲上
新千 雲上
風 雲上
新続古 雲上
新千 雲下
同 雲二
新拾 霧
風 雲五
同 雲六

いきとまる　ひとつなけれどいわ波の間にたさしも若ちなる雲わ　權僧正覚信
又もせん　ひとつなけれどいさ玉花に波一枚をおりてなりわの　源通親
まちさてハ　ひとしほふかきみりしはよ言うわぬ人の羽衣あるか　友系院信　名九
されてむか　ひとつとなれよのうちをとみかう花をそうう　前大僧正義運
ちるあれ　ひとしほいこの姿ハ月も我方もむしろいそ　永福門院　うるさ
ちるまてよ　ひとしほいこの雪のあるというわにけり花の白つ雪　平親清女
風なたに　ひとしほいこの松の上ちりにおるまちわ雪　後嵯峨院　四製
さつ孫く　ひとしほとあ雪の庭にけれ人ハ雪ちり松風　花園院　四製
あれ　ひとしほ（ひとしほ）ちりて波うちいそむるわ高ちうん　菅相院贈　九大代
いつして　ひとしほなうんうこの糸と風のあうわ雪次ハ　後宇多院　四製
うみをハ　ひとしほうさしやかこそうしかりこ雪ハ　善歌
きふ山ち　ひとしほ我とつ孫ちわ人の立しき　永福門院

新拾 霧
新続古 雲上
風 雲二
新千 文
風 雲下
新千 雲五
新続古 雲三
同 雲上
同 神
同 雲上
新千 雲下
新拾 雲三

我なるあ　ひとしほ旅孫して立の花月よりの雪ふん　後光明峯寺 京極殿大大代
袖あ次　ひとしほやあうごもしほるよりうみ浦よりの雪ふる　信實朝臣
我みるあ　ひとしほ三月ハ雪の夜ちの通よりの小車　前大納言實 四女
ちるあ　ひとしほ月ちうにはれ雪の初春ハ雪　後二條院 四製
きいあて　ひとしほやちからふん雪ハ波を一て次　前九大代
たちの雪　ひとしほこ雪ちなけ雪こそ雪ちなて雪ハ　栄式部
ひとあ雪　ひとしほ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ　後恵法師
我し三代　ひとしほ三代ちてなしたはくちうん　後人不知
なれさつ　ひとしほ三代ちてなしたはくちうん玉津島姫　鹿苑院入道 ち大政大代
同　ひとしほなれ雪に雪こそ雪ハ月をうる雪　後九条前 四大代
のりえあ　ひとしほ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ　前大納言實教
ちしは　ひとしほ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ　後人不知

新千 三上
いつの○寺　いるかぬいしとい　ものいとはにためる秋せりそ　井手左大臣

新続古 三上
おちるなる　いわハ月ハ　ごろみて　庵かこ　ひるはるの　前中納言有忠

風 天
さわぐも　風ハ　いわハハ　こ世なわ　なりの　空ハ月　はるの　月日　はるの　大　前大僧正雅

同 秋下
　　　

彩千尺
いわみ
皇太后宮大夫俊成

同
いはしろ
藤原定家朝臣

同
いなせ
藤原為家朝臣

風
ふかせ
前大僧正慈円

新続
はつせ
藤原為家朝臣

新拾
友
いかなる
前大僧正慈円

同
はつせ
藤原為家朝臣

風
はつせ
前大僧正慈円

新拾
友
いかなる
前大僧正慈円

彩拾
はつせ
藤原為家朝臣

彩千
詠歌
やまと
藤原為家朝臣

風
はつせ
前大僧正慈円

新拾
友
いかなる
前大僧正慈円

彩千尺
いわみ
皇太后宮大夫俊成

同
いはしろ
藤原定家朝臣

同
いなせ
藤原為家朝臣

風
ふかせ
前大僧正慈円

新続
はつせ
藤原為家朝臣

同
はつせ
藤原為家朝臣

風
はつせ
前大僧正慈円

新拾
友
いかなる
前大僧正慈円

彩拾
はつせ
藤原為家朝臣

彩千
詠歌
やまと
藤原為家朝臣

風
はつせ
前大僧正慈円

新拾
友
いかなる
前大僧正慈円

彩千尺
いわみ
皇太后宮大夫俊成

同
いはしろ
藤原定家朝臣

同
いなせ
藤原為家朝臣

風
ふかせ
前大僧正慈円

新続
はつせ
藤原為家朝臣

同
はつせ
藤原為家朝臣

風
はつせ
前大僧正慈円

新拾
友
いかなる
前大僧正慈円

彩拾
はつせ
藤原為家朝臣

彩千
詠歌
やまと
藤原為家朝臣

風
はつせ
前大僧正慈円

新拾
友
いかなる
前大僧正慈円

尺
いわみ
皇太后宮大夫俊成

風
冬
おなじなる
正三位隆教

彩千
はつせ
藤原為家朝臣

彩続古
はつせ
藤原為家朝臣

同
はつせ
藤原為家朝臣

風
賀
岩戸山

同
冬
おなじなる
山陵入道前太政大臣

彩続古
羇
前大僧正源恵

風
はつせ
藤原為家朝臣

同
はつせ
藤原為家朝臣

彩続古
はつせ
藤原為家朝臣

風
友
いかなる
前太政大臣

同 冬
新千 神
風 雜中
新拾 きよ上
風 雜上
新拾 きよ上
新千 きよ下
風 恋二
同 雜下
新続古 雜上
新拾 冬
新千 雜

雪とふる　いけの面に　木ずえもみつる　ひかりかな　後伏見院中納言典侍
うわの空　いけのつつみの　ゆきの色　ふるとも　神はしるまじ　順徳院御製
見わたせば　いけ水かすむ　ゆふぐれの　雪の色　ふるとも　後鳥羽院
浦づたく　いけ水ながれ　なれよはまとて　ゆふぐれ　金　後京極摂政
山もとの　いけのよはの　木ずえに　水ゆふぐれ　ふる雪　源頼朝
ふるさとの　いけしの花　ふる雪　ゆきかとみよ　亀山院御製
木ずえも　いけのうちの　ゆふぐれ　ゆきかと　雪中鶴　定家
いけとまり　いけの水　ゆふぐれ　ゆきかとも　鶴の声　後三条院御製
ゆきさえる　いけのうちの　ゆふぐれ　ゆきかと　雪大僧正慈円
ゆふぐれの　いけの水　ゆふぐれ　ゆきかと　雪　津守国基
ゆきかと　いけのうちの　ゆふぐれ　ゆきかと　雪　法眼行淵
ゆきかと　いけのうちの　ゆふぐれ　ゆきかと　雪　雪

新拾 雜中
新拾 きよ下
新拾 雜きよ
風 賀
新拾 秋上
同 恋四
新千 雜下
新続古 雜中
新拾 羇
新拾 神
新拾 雜上
同 冬

いけにすむ　ゆふぐれの　ゆきかと　雪　紀親文朝臣
きよみ　ゆふぐれの　ゆきかと　雪　今出川院
ゆきかと　いけのうちの　ゆふぐれ　ゆきかと　雪　後鳥羽院
花よりも　ゆふぐれの　ゆきかと　雪　後京極摂政
ふるさとの　いけのうちの　ゆふぐれ　ゆきかと　雪　藤原為家
いけのうち　ゆふぐれの　ゆきかと　雪　秀風法師
ゆきかと　いけのうちの　ゆふぐれ　ゆきかと　雪　恵空上人
ゆふぐれの　いけのうちの　ゆふぐれ　ゆきかと　雪　前参議教長
いけのうち　ゆふぐれの　ゆきかと　雪　今出川院
いけのうち　ゆふぐれの　ゆきかと　雪　後人丸
いけのうち　ゆふぐれの　ゆきかと　雪　等持院贈太
いけのうち　ゆふぐれの　ゆきかと　雪　信定法

新続古冬
さくらやま
いろいろかさねかぶりたるあけぼの　後二条院御製

彰考文
はれぬるか
いろいろ色の時のまにてをくれぬる　前大納言資名

風雅上
八重さくら
いろいろ色にそめなすみよしの松の入　果徳院殿

新千秋
あめつちの
いまを一時の春なれやうつるこころの色ぞ　法下定為

新拾秋
あめつちの
いまをうつるやちくさの花の色とりどりに　源知行

風三
いつなりし
いはとさしにもれしこころをかくしかね　読人不知

新続古冬
すがやとき
いわの間川のこほれる水のふかき心を　深守法親王

新千冬
のどかなる
いやもとあるかんとのの内ぬるそうはなくして　前大僧正覚円

彰考文
なつかれを
いのちにはあてはるはるの水ぬるむこころ　中務卿宮宗

同雅上
夕ぎりの
いくしまをみるせをかけらるあまのつり縄　太上天皇

新拾三五
そくぬれ
いてはあまくに袖ぬれて　正三位家

新千三
あはさらう
いてはあまくに袖ぬれてはるのまもなく　法下寛乗

彰考文
乃てしまふ
いてはあまくにせしたるの浪みを　金三位親　苔道

彰拾三五
こと方に
いくしまなくふなを縄のよるもうかれ　法皇師

風文
あやめぐさ
いくしまるしほはこぬ月の入の沢　前大納言信継

同文
鳴るさは
いはとさけ入を近くやそのうちの蛙の声の　藤原隆信朝臣

同雅下
もしをれ
いはとわ月の入をやこのうかしき　後西園寺入道前太政大臣

彰千雅上
ひらら波
いはなくさをこのくれの妹そのかしき　大伴黒主

彰拾雅下
ひとしるる
いはのうるはの入はしるるあの若かたなりなる　法下寛基

風雅中
まれなる
いはなくに風もたせよ波こぬれ夜よれるこころ　前大納言長雅

同雅上
ものなを
いまこそかくれなくくるる時の色ぞ花の間もせと　秋成卿

新拾雅
やり出うむ
いはしそかくれなくれやさりの風久しく間波のけさこそ　従二位親隆

同三一
もしもしき
いはしそみくれたれふかく水　左大臣院小　幸相

彰千慶賀
そこぬく
いけとそあえせあやめぐさのもとに松の根ふかく　上東門院

新拾遺 夏
新千 慶賀
新続古 夏
風 雜下
新拾 賀
新続古 離
風 夏
新続古 雜下
新千 神
新拾 神
新続古 賀
新千 雜中

やりこうて　いまうめやめ初めてみてそうかれめ　法皇文化第 後白河院
やりたうて　いまうあやめ初めてみてそうかれたりしこと　後白河文化第 後鳥羽院
たけとおと　いまふ海さうあまりあてたよふ人もみ　凡河内躬恒
人の世て　いたしこふて一時の美ならてさも花しみさ　従二位為子
春うめめ　いたこうえうさうあしてもいかゝ次代やん　今出川公 前右大臣
文こにも　いたしくいとおれ京のたゝあふ世とはらも　関白内侍
春よ酒て　いたしくだりめ玉の紅みの紅令の惜けては　後人丸
みつめきて　いたしくだりめあまのふむしたりてのそうけ　為家朝臣 御下
ひて人てを　いたしくなりめ花みたさの二てのはる四代のけて　康寺関平
月のこの　いたしこせうもむ月の神はまる新やあん　平行氏
酒井川　いたしきこそけうと乗はむ山の初て三月ん　大納言経
いはこて　いたこ別のうの結よ成の歌はこうか　宮内卿

新続古 雜上
同 恋上
同 詞部
風 冬
新拾 夏
風 雜下
新拾 恋上

うちて　いきこれはこれはこれはこれはこのあやうぬ　同陽明院
二葉うち　いきこそうめうの人のいとのものと初ときくも　柿本人丸
あはさとり　いきことこむつこ別海とやとこりもうてこの月　権中納言雅
入あいなの　いきこ成道の山風よりこ本のこうれ　権中納言家
いなの春よ　いきこなの人の初風とこてこてこの蛾の人こと　後人丸
ひこ花　いきうやの月にぬけめの人月の初て衣うりなり　後二位家隆
むめれ花　いたこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう　摩賀王母

も

新千秋下　風　藤上　新拾藤中　風　玉上　新千慶賀　風　藤中　新拾玉二　新続冬　新千秋下　新続藤上　新拾玉二

[illegible]　[illegible]　後鳥羽院御製　御製　後鳥羽院御製　今出川院親王　[illegible]　阿一上人　[illegible]　[illegible]　[illegible]

彩抄 友
風 冬
新続古 五一
新抄 新上
新千 友
彩抄 殊下
新千 五三
彩続古 五四
風 友
彩抄 新殊
彩抄 五一
彩千 新上

霧たつ き の
秋きり乃

わかうえし田乃かりほに袖うちあへてさなへとる
なり
わかれぬるこしぢの空乃
なつそしら
なつの日さし
秋やまの
露みつ
なかめ
水鶏なく
夜しもこそ
うらぶれ
いねてみ

薬大師の
寶塔
權僧正增祭
權中納言實
善光法師

院當番
南門院製
後二條行家
宗尚院歌
あ尚院四條
後嵯峨院
讀人不知
薬大師の
寶塔
權僧正增祭
權中納言實
善光法師

同 冬
新抄 五一
彩続古 五一
彩千 五三
風 五中
彩抄 新上
彩千 補
風 五一
彩続古 五一
風 五一
彩千 五二
新拾 五一

しぐれ時
夕時雨
たゝ
ふる
雨
ぬれ
しぐれ
雨
ぬれ
ぬれ
ぬれ

彩千 恋五
我ならぬ
人ゆゑ
ものはなけれど
ながめ
忘れ
ぬ
己院 宗教
九十九

彩後古 恋五
ひとりぬる
さめぬる
ものとは
ながめ
ながめ
ぬ
坂上郎女

彩千 雑上
さめぬる
ものとは
ながめ
ながめ
ぬ
友家基明

新後古 雑下
たのまれぬ
ものとは
ながめ
ながめ
ぬ
京中納言雅孝

彩後 恋下
我やとの
ものとは
ながめ
ながめ
ぬ
恵慶法師

彩千 秋上
ひとりぬる
ものとは
ながめ
ながめ
ぬ
京大納言経

彩後 別
心きはの
ものとは
ながめ
ながめ
ぬ
坂中納言憲

風 雑中
たれまた
ものとは
ながめ
ながめ
ぬ
京中納言定

彩後 雑三
ものとは
ながめ
ながめ
ぬ
正三位通茂

風 雑下
かくれん
ものとは
ながめ
ながめ
ぬ
正三位家

同 恋五
ながめ
ものとは
ながめ
ながめ
ぬ
永福門院

同 秋中
なぶる
ものとは
ながめ
ながめ
ぬ
西行法師

同 冬
我やとの
ものとは
ながめ
ながめ
ぬ
後徳院御製

彩後 雑上
京にて
ものとは
ながめ
ながめ
ぬ
後宇多院御製

風 恋三
うぬれて
ものとは
ながめ
ながめ
ぬ
後鳥羽院

同 秋中
みるかな
ものとは
ながめ
ながめ
ぬ
宗忠流

彩後 恋四
みてし秋
ものとは
ながめ
ながめ
ぬ
藤大納言為定

彩後 恋三
ひとりぬる
ものとは
ながめ
ながめ
ぬ
後神泉苑内大臣

彩千 恋一
人ゆゑ
ものとは
ながめ
ながめ
ぬ
貫之

彩後古 秋上
秋くれ
ものとは
ながめ
ながめ
ぬ
花山院御製

彩後 冬
いくたび
ものとは
ながめ
ながめ
ぬ
京極殿

同 秋上
ながめて
ものとは
ながめ
ながめ
ぬ
閑白兼光大臣

同 雑上
ひとりぬる
ものとは
ながめ
ながめ
ぬ
友家元真

彩後 雑下
我ならぬ
ものとは
ながめ
ながめ
ぬ
僧正永縁

新後拾 恋一
風 神
新千 哀傷
新拾 雑中
新千 恋三
同 雑上
新後拾 雑
新千 雑中
風 雑下
新拾 恋一
新千 恋一
新後拾 恋二

いそのかみ ふるの神すぎ いにしへの
ものとのみ ふるの神すぎ ものとのみ
ものとのみ ふるの神すぎ ものとのみ
ものとのみ ふるの神すぎ ものとのみ
ものとのみ ふるの神すぎ ものとのみ
ものとのみ ふるの神すぎ ものとのみ
ものとのみ ふるの神すぎ ものとのみ
ものとのみ ふるの神すぎ ものとのみ
ものとのみ ふるの神すぎ ものとのみ
ものとのみ ふるの神すぎ ものとのみ
ものとのみ ふるの神すぎ ものとのみ
ものとのみ ふるの神すぎ ものとのみ

夜多資忠
鴨社明神
中納言朝忠
前大納言為氏
二条院讃岐
前大僧正隆弁
前大納言為氏
遠島院
前大納言為氏
左近中将具氏
夜多資忠朝臣

新後拾 恋一
新後拾 雑上
新千 恋
風 雑下
同 尺
同 冬
新千 雑下
新後拾 雑下
新千 秋下
新後拾 雑下
新拾 冬
新後拾 雑下

ものとのみ ふるの神すぎ ものとのみ
ものとのみ ふるの神すぎ ものとのみ
ものとのみ ふるの神すぎ ものとのみ
ものとのみ ふるの神すぎ ものとのみ
ものとのみ ふるの神すぎ ものとのみ
ものとのみ ふるの神すぎ ものとのみ
ものとのみ ふるの神すぎ ものとのみ
ものとのみ ふるの神すぎ ものとのみ
ものとのみ ふるの神すぎ ものとのみ
ものとのみ ふるの神すぎ ものとのみ
ものとのみ ふるの神すぎ ものとのみ
ものとのみ ふるの神すぎ ものとのみ

為道朝臣
頓阿
天満宮
侍従具定
院御製
前大納言為任
夜多資忠
源義将朝臣
後鳥羽院御製
前大僧正道意
賀之
大政大臣

新拾 雑下
新後撰 雑下
彩子 冬
彩撰 秋下
彩拾 秋上
風 旅
彩拾 雑下
彩後 雑下
彩子 雑下
彩撰 離秋
同 離上
彩子 冬

中納言宗頼
正二位隆教
人丸
詠人不知
源兼氏卿
藤原有範朝臣
前大納言為兼
藤原長経
従二位家隆
太政大臣実
参議従二位
法師長舜

彩後古 冬
風 冬
彩後古 雑
彩子 恋一
彩後古 恋二
彩子 恋一
風 交
彩拾 雑下
彩後古 離下
彩拾 女賀
彩子 恋三
風 賀

恵法師
藤原為家朝臣
玉津島の三社
一位前太政大臣
俊成三位
藤原実氏
前関白太政大臣
友原法師
信生法師
参議従二位
藤原為氏
法師定覚
山本入道前太政大臣
太政大臣兼経

彩子
恋ゝ

雲しもふ　ゑもんなるよくさうて　きてかし約人に　髪りたれる　恋大徒と　寡数

百十首

せ

風
紀中

彩於
旅

彩後吉
玄上

彩於
冬

彩後吉
恋ゝ

彩於
恋一

彩於
冬

彩子
恋一

彩子
恋又

彩子
羇

彩於
紀春

ぬるみても　せゝらぎとふるまでいかにかいさいる星ぬるせ　佛四孫帥

ありらかゝ　せのはに風吹さえて　やそあるたかるる人　談人不名

ありらかゝ　せのもに風吹よりかるみもそあはさこり白浪　寶篋院贈左大

あらかゝ　せのもに風こまふけて　ゆるれのおけ　友京和顕

みゝこ川　せゝのとうのしれもはいりり　独れ　ゆそえん　紫式部

あり家よ　せゝうゝ水やこうりんを　をよれられ　河浪　左京兆大夫
百四

独にゆる　せうれぬ波ゝうかふりゆるうき若松り　恋大僧正俊寛

れにのはて　せゝらにらゆる　独ゆゝふゝゆるゝ　波れるやゝうん　常元法師

ちれるよ　せゝも人ゝよ　ゆれ川あさきたりて　紀ゆえ　嵯京元康

あ風ゆれ　せゝこいゝるゝとゝ　ゆて　あるに　紀かるん　如部法師

あふさえ　せゝこいとゝゝもかゝゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　法京教後

円 忠二 風 張

うきよの せきいらずとうたてあるもの 手光俊

ひろさの せきいれかとそなたをかりて板ひろけ 友京定宗 朝下

彩於 新上

ひろさの せきてのこゑもきしてひろこたるこゑ 読人不知

彩子 新別

ひえぬもの せきとめておなじきかたにとまりて 友京宗通

彩後古 忠四

君ぞこも せきとめあへいらしけれやくみもたて 祝部宿禰伊母

彩於 秋上

あらこしろ せきちもとめかりかるるをこそあるらめ 皇太后宮大夫 後成女

円 張

鳥ぬれる せきとめこそあるきこそのをとめに 前刑部卿 白雲

彩子 新上

清みこと せきとめられて松にとまりて妙 前中納言有光

風 張

あらこ春 せきとめてそなたをうきけれとうきみの 友系教成

彩後古 霧

清んこと せきとめかねてなをかなたをいとくるしき人 後公家乃前 内大下

彩子 冬賀

いりこも せきとめさるれば代なりてと我乃をまもりぬる 前大僧正

彩後古 忠二

いりもとの せきとめかねるあまのきぬのまし 境宮上人

彩於 新中

うたえの 前内大下

彩子 大

数のこの せきとめかねるあるや世てはなくまし 法皇御製

円 新中

たしなの せきとめかねるあるこそ思ふ君ぬるあて 一條内大下

彩後古 忠二

かひのも せきとめかねるてはなるこゑをたとる 真光法師

彩子 忠三

かくられ せきとめあへうきいるれよりゆきとこゑ 読人不知

彩後古 忠三

かくられ せきのあうきいるかとりもうくるこゑ 前参議雅有

彩於 秋上

ひろさの せきとめ松村さりこゑ思松ふけの 清貫宿禰

彩於 羽

ひろ川れ せきとめに月れりる新人れ心をもなりなり 西行法師

彩後古 忠七

ひろ彼れ せきとめこゑもしろなりなり 祝部成茂 大内大下女

彩子 忠一

なりこ又 せきそこそんの御のこゑとりしの袖をうえ 大江為忠

彩後古 忠二

ひろ袖 せきとめ御のこゑをあつるとるひろをる 後三位教成

彩於 新

われちは せきとめ御るの松きあふ坂れ若をいかぬ 京極前内大臣 白河院 大内大下 肥後

行幸於新秋

きてもみな　せきこえぬとは　中務卿親王

行後古恋三

いふせん　せめて　旅ねにこそ　あはれ　なれ　後三條院御歌

風恋四

せめて　ハのひ　ものこそ　ものこそ　なれ　雅世

行幸恋二

なるの中に　せめて　みえよ　開寺　なれ　なるも　さ　雅世　通為

月恋三

こそ　なれ　せめて　なれ　なれ　なれ　なれ　なれ　聖徳法師

風新上

ちる　花　せめて　吹　あ　よ　そ　そ　風　乃　佐　と　なれ　源貞世

行後古恋四

なけき　ハ　せめて　そ　ハ　ハ　ハ

寸

風 点ミ
かたちら
みねわ
もの中と
こりねと
はつかし
ゆきれの
ぬるた
ふゆの
同 冬
同 春下

新続古 点二
ちてうみのそのくもうきはなさかりおしく
ちるはなしかくいつの春をそれもはるあてるさハ
ちるはなしあまもわかちる月さゆの夢
ちるかさとちるてはなしにまちわてはれ斧如
ちるかの西のつ西はちらるあ春はのはなを人をあり
ちるれ西はちらるあ春はの袖めちん
ちるゆるはるはるとうはなくはてはふ
ちるちもちもの春をかねてそさん
ちるはのはるはるはるみて春のもをとへまを
ちるれちるなりはるるるるの春
ちるくはるるるるの西はるるるるる

新拾 点三
月ちに
はくはの
仏人山
ふいちと
ちてはを
ちてはを
ちてはを

初秋於新上
あらしさそ
ふ山のはやくくる
法華経
初千尺
仏月光
ふたつの月を
解脱月とし
富士上人
初終日新中
ゆくすえ
ゆくすえの月を
ゆくすえ
ゆくすえ
栄西禅師
初秋於新中
いそぎ世に
ゆくすえ
ゆくすえ
ゆくすえ
法華経
初千新中
ゆくすえ
ゆくすえ
ゆくすえ
西行法師
初終日新上
ゆくすえ
ゆくすえ
ゆくすえ
ゆくすえ
初多新
かくて世
ゆくすえ
ゆくすえ
ゆくすえ
源清氏物語
同新中
ゆくすえ
ゆくすえ
ゆくすえ
ゆくすえ
法華経
初秋於尺
ゆくすえ
ゆくすえ
ゆくすえ
ゆくすえ
法華経
初秋於新秋
ゆくすえ
ゆくすえ
ゆくすえ
ゆくすえ
法華経
同新秋
ゆくすえ
ゆくすえ
ゆくすえ
ゆくすえ
法華経
同春
なにとあ

初秋於新下
ゆくすえ
ゆくすえ
ゆくすえ
ゆくすえ
法華経
初終日新中
こゝろに
ゆくすえ
ゆくすえ
ゆくすえ
ゆくすえ
瓊子内親王
初千新上
月にも
ゆくすえ
ゆくすえ
ゆくすえ
ゆくすえ
栄仁親王
初終日新中
山ゆく
ゆくすえ
ゆくすえ
ゆくすえ
ゆくすえ
中務宮家
初千紫賀
ゆくすえ
ゆくすえ
ゆくすえ
ゆくすえ
冨小路
同新中
山ゆく
ゆくすえ
ゆくすえ
ゆくすえ
ゆくすえ
冨小路
初千霧
限ゆく
ゆくすえ
ゆくすえ
ゆくすえ
ゆくすえ
冨小路
初千霧
秋ゆく
ゆくすえ
ゆくすえ
ゆくすえ
ゆくすえ
冨小路
初秋於新上
行てゆく
ゆくすえ
ゆくすえ
ゆくすえ
ゆくすえ
冨小路
初秋於冬
ゆくすえ
ゆくすえ
ゆくすえ
ゆくすえ
冨小路
初千秋上
ゆくすえ
ゆくすえ
ゆくすえ
ゆくすえ
冨小路
同冬
ゆくすえ
ゆくすえ
ゆくすえ
ゆくすえ
冨小路

初句切 神も又
世中を
ながさは
なかれ
初句切 一ちゃれ
初句切 七十れ
七十れ
初句切 ちくと
みるもの
初句切 きわく
ふとい
ならって

中務卿親王
三首上人
後鳥羽院
法人不知
勝命法師
藤原定家
後三位氏久
前右兵衛督為教
土御門内大臣
法人不知
浄弁阿闍梨
右大下

円 姫上
初句切 大ひえや
風 こ酒
初句切 姫ちゃ
風 秋下
風 新中
初句切 みちの
初句切 何とも
初句切 何とも
風 新中
初句切 ふ
円 新上

吹ちて
ちきの風れ
ちれすりけ
ちれて風れ
ちれて枝風れ
ちれて本ちに
ちれて本ちに
ちれて下道
ちれて鳥れ
ちきの方
ちきの方
ちきて方
ちきて方
ちきて方
ちきて方
ちきてあく

萩を姫
萩を姫
萩を姫
萩を姫
萩を姫
萩を姫
萩を姫
萩を姫
萩を姫
萩を姫
萩を姫
萩を姫
萩を姫
萩を姫
萩を姫
萩を姫
萩を姫
萩を姫
萩の葉

前大納言為重
二首は親王光仁
外位
法橋既昭
藤原仁親王
院一條
前大納言公陰
前大納言為氏
後四条院御百
左四下
前内大臣
後二位長方
西行法師

彩於 新上
山風の
とまをもとめて行くも
彩後於 別
とまをもとめ
彩於 冬
いとゝよ
夏ハ
彩 新中
月
彩 新下
あ小夜
彩後吉 新中
風
秋中
彩於 秋下
月ハ
風
秋中
彩 秋上
あ海
風 新下
水の
彩於 新上
山里の

法伝法師
大納言経信
歌人不知
平重時卿
太宰権帥為理
歌人不知
元方卿
隆四郎
歌人不知
大江匡房
元可法師

風 新下
とまを
月 冬
月の海
彩 新中
山ゆき
彩後吉 新上
いゆく
彩 暮
ゆき
彩於 新上
うき世の
風
秋中
月 新
ゆき
月
秋中
本
月 新上
代
彩 冬
彩後吉 家備
世中

後京極摂政
歌人不知
西行法師
道命法師
蓮道法師
後三位
西行法師
月
後京極摂政
六条摂政宣旨

彰松於新下
あさぢふの
をのの篠ふく
秋の夕
原仲信

彰後古歌
をぐらやま
ふもとの
をばなに
あらしの
ふきしを
平常頭

彰松於新秋
あきかぜの
ふくにつけて
をぐらやま
をばなの
はのみ
原孝之卿

彰後古歌
ちりぬれば
をぐらの
やまの
をばなに
ねをのこす
京法親王道朝

彰子表傳
をぐらやま
をばなの
はのみ
ちりぬれば
ねをのこす
原有長卿

彰松於秋下
をぐらやま
をばなの
はのみ
ちりぬれば
ねをのこす
俊兼卿

彰子文
をぐらやま
をばなの
はのみ
ちりぬれば
ねをのこす
藤原為家

同新中
をぐらやま
をばなの
はのみ
ちりぬれば
ねをのこす
藤原為氏

彰後古歌二
をぐらやま
をばなの
はのみ
ちりぬれば
ねをのこす
藤原為家

彰於新中
をぐらやま
をばなの
はのみ
ちりぬれば
ねをのこす
藤原為氏

風新下
をぐらやま
をばなの
はのみ
ちりぬれば
ねをのこす
藤原為家

彰子新中
をぐらやま
をばなの
はのみ
ちりぬれば
ねをのこす
藤原為氏

彰後古歌下
をぐらやま
をばなの
はのみ
ちりぬれば
ねをのこす
藤原為家

同歌二
をぐらやま
をばなの
はのみ
ちりぬれば
ねをのこす
藤原為氏

彰松於歌人
をぐらやま
をばなの
はのみ
ちりぬれば
ねをのこす
藤原為家

彰松於秋下
をぐらやま
をばなの
はのみ
ちりぬれば
ねをのこす
藤原為氏

彰千秋下
をぐらやま
をばなの
はのみ
ちりぬれば
ねをのこす
藤原為家

彰後古歌
をぐらやま
をばなの
はのみ
ちりぬれば
ねをのこす
藤原為氏

彰千歌上
をぐらやま
をばなの
はのみ
ちりぬれば
ねをのこす
藤原為家

彰松於歌人
をぐらやま
をばなの
はのみ
ちりぬれば
ねをのこす
藤原為氏

同歌二
をぐらやま
をばなの
はのみ
ちりぬれば
ねをのこす
藤原為家

彰後歌
をぐらやま
をばなの
はのみ
ちりぬれば
ねをのこす
藤原為氏

彰後於新古
風歌一
をぐらやま
をばなの
はのみ
ちりぬれば
ねをのこす
藤原為家

風立春

ちはやふる
神のみよより
ちりにけり
人の中をば
はらへとぞ
思ふらむ

後伊勢院宮

初後拾遺
雨上

あしぬくの
ちりをはらへば
ちりぬるの
ちりにけりとも
ぬるかな

法印慶縁

初千冬

かりがねの
ちりにけりとも
ちりにけり
かりがねの
ちりにけりとも
ちりにけり

藤原行朝

風冬

みなれぬる
ちりにけりとも
ちりにけり
ちりにけりとも
ちりにけり

伊予四位

初千秋下

こがらしの
ちりにけりとも
ちりにけり
ちりにけりとも
ちりにけり

坂上是則

風秋上

ちりにけり
ちりにけりとも
ちりにけり
ちりにけりとも
ちりにけり

藤原公任

初千文

ちりにけり
ちりにけりとも
ちりにけり
ちりにけりとも
ちりにけり

初後拾遺秋

ちりにけり
ちりにけりとも
ちりにけり
ちりにけりとも
ちりにけり

初後拾遺秋上

ちりにけり
ちりにけりとも
ちりにけり
ちりにけりとも
ちりにけり

同冬下

ちりにけり
ちりにけりとも
ちりにけり
ちりにけりとも
ちりにけり

風文

ちりにけり
ちりにけりとも
ちりにけり
ちりにけりとも
ちりにけり

同文

ちりにけり
ちりにけりとも
ちりにけり
ちりにけりとも
ちりにけり

人丸

権律師仙覚

おもかげに
ちりにけりとも
ちりにけり
ちりにけりとも
ちりにけり

藤原定家

坂上是則

百首一首

新和歌類句集

い

風 冬
吉うらの和面に波の乃
へたてゝ後こそ
風 尺
彩雲 恋ゝ
天ゝ
月 文
彩雲 冬
有明よりけにうらく
こがらしの吹ふの野よ
風 春下
風 恋ゝ
彩松 冬
吹ちるは雪にあらしの
人方乃世いやとけれ
初雪のふりそしし
月 春下
彩雲 雜上
ちゝ花の上の月よ
よはにうゝ方にかゝ

ゝ乃葉にもつまりてもゝ秋の露
ゝ乃さゝ乃ふるにまもゝとゝ
ゝ乃ひきれうるゝ乃
ゝ乃せ川多ゝ乃ゝ氷に下乃
ゝ乃ひあまゝ乃花にあらしゝ
ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ

民乃方之
後宇多院 御製
三條院 高倉 左近
教行法師
皇太后宮大夫 俊成
徽安門院
永福門院
前大僧正 慈鎮
前大納言 俊通
教行法師

新古 雜下
新古 立一
月 雜下
風 冬
月 冬
月 雜下
新後拾遺 冬
新拾 冬
月 立四
月 冬
新後拾遺 雜下
新古 春下

世にふるかぎりとかけそめしこの
きたのかるてのなかをとこ
かれにけりあきのはてのあさ
かぜにあきはのこりのかぎりとも
なるこのかぎりとはんよりかけか
そこれのこゝろをもこゝろの
心あるこゝろをもこゝろ
人の世にふるこゝろもこゝろ
きのうらのうらのうらのうら
きてわびぬ老の年の
かりつるのあきとんとこ
ゆくとうのこゝろのこゝろ
いとゝ物なるこゝろ
ゆくとうのこゝろのこゝろ
君まちぬ屋こゝろ月の

俊成卿
家集
後人云
拾遺
儀同新
後撰
はつ秋
貫之
家集
赤染衛門
西行法師
はるの人
拾遺
後拾遺

風 雜下
新後拾遺 立三
新拾 立四
新後拾遺 春上
新拾 立二
月 誹諧
風 立二
月 雜中
月 春下
新後拾遺 冬
新古 雜上
新後拾遺 雜中

もれもこれこゝろとかけ
ゆくこゝろのこゝろ
こゝろのかのようにこゝろ
ゆくこゝろ人こゝろ
こゝろにこゝろこゝろ
こゝろにこゝろこゝろ
こゝろにこゝろこ

新拾遺上
月
ひさかたの雲ゐにうつる月かげ
元亨釋書 僧慧
ぬしやれもしらぬ雲のの
元亨釋書 僧慧
彩子
雅中
風雅
玄三
かしらぬわとしをつくり
元亨釋書 僧慧
ふるさとにうえし松井の
後三條院
彩子
雅下
かをくにうえし松井の
永福門院
彩後松
雅長
ゆふやさなくまに
信實卿
風
玄四
物もをしにあるやかくは
俊成卿女
風
玄四
よのなかをしらしとうしを
新拾遺
月
尺
あのとふ言葉乃をれ
院御所
彩松
雅上
彩後吉
尺
花ゆゑのもれやを乃
桂大納言公宗女
彩子
歌別
うれ乃ふ新の菊の
桂法眼別雅
一乗乃中法をあつ
十禪師御所
しさうしとかしるうも
歌合
新拾遺
月
雅中
今らわい花乃たらわに
殿富門院大納
彩後松
玄
水ゆゑの思ひ乃
家信卿
月
尺
つを松やうえしはるん
後乃祝
風
玄一
ふるにまてし人間の
永福門院
月
玄三
はいしてものさにはれ
院御所
彩松
玄四
もたにてをわるを
小町
彩後吉
雅下
業平の川風乃波も
惟賢上人
風
玄
紅てもるるくるの
左近大將乃嗣
月
雅中
雅子
雅上
遊てはるかとの
院御所
彩後松
玄
紅もてふ心ちの
法眼性善
風
玄
紅はるもあんぬ
西行法師
なれう紅心ほくまを

彩像古
夏
月
夏
月
夏
新枕
夏
彩子
点三
彩像古
秋
風
秋下
月
春下
月
春中
新子
点一
彩後枕
点四
彩像古
点一

きけい野辺のあさぢふ
とたのもしやなく郭公
ほのかなるこえ
ほとゝぎす
郭公
いとしかりける人の
花もさためぬ
さつきの宿の
風ふきもしらぬそのあ
ぬしとて花もぬれ
ぬ
つゆのしたくさかわるそのあ
ぬしもしらぬそのあ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

風尺
月龍下
彩松秋下
風龍中
月亟三
彩後吾亟二
月龍中
月尺
彩子亟二
風龍下
新子亟二
月春上

彩子誠後号
彩後吾秋
月龍上
彩子春下
彩後松春下
彩後吾
風秋中
彩後吾龍下
月離
月龍上
新松尺

永福院
源頼負
猪苗代通後
後伏院御所
冷泉前大納言
後嵯峨院
源為朝
後鳥羽院御製
為盛
為俊卿
源人宗
道赤人
基後
祐盛法師
後宇多院
源実朝
為家卿
藤原利光院
為家卿
為家卿
為家卿
実教法師
後三条院
法眼慶運

新拾遺
雨
雨ふきやみわたりぬるあとの
はるかぜ
後人
水の面のうすこほりうちとけて
うれいぶかしき
後鳥羽院御製
新後撰
雪
ひとつ雲のたなびくとみるまに
ゆふだちすぎぬ
後鳥羽院
月
秋上
をちこちの里の月かげ
くもりなくやどるとも
なほ
後鳥羽院
風
恋三
ふきかよふ
義信王
新
尺
ましらの
ふるさとの
ねぬ
永福門院
新後拾遺
夏
ふるさとの
ねぬ
伏見院御製
新
老
ふるさとの
ねぬ
皇太后宮大夫俊成女
風
雜中
ふるさとの
ねぬ
摂津国
新後拾遺
旅
ふるさとの
ねぬ
摂津国
月
春下
ふるさとの
ねぬ
家隆卿
新
春下
ふるさとの
ねぬ
摂津国

新拾遺
春下
はるかぜ
はるかぜ
はるかぜ

新後拾 夏
ふるとしのくとゝをんなを見
て蛍山いたつの飛てゆく　谷川乃あ　帝院御製

風 賀
あさ乃下もしたいとやゆきわけん
ゆ乃ゆ乃ゆ乃

新拾 雜上
新千 雜上
新拾 雜下
月 秋上
新後撰 秋上
新後拾 秋上
風 秋上
新拾 雜上
新千 秋上
新拾 雜上
新後拾 夏
新後撰 雜上
月 雜上

えにのこる川さらしもりふるにあまさかる屋の
音もけて夜いまさらに光わ
こ川ら音きて遠
天川うをとらんとく
見しやふるてわもしらし
雅風いすしくさきね
わ雅ていさえ雅さきぬと
四ひふるこにしられて
心川のみとまたらて
ふやとに梅の花ぬ
ムすこ人ひさらのう

まみえてわ月に物風ぞ吹　安倍方光朝臣
えまけこと夕わ袖ぬとら　源重之女
えまるく吹ま人と澤ん　貴之朝
えこりれ七夕ひとなしかるし　赤人
えこりれ書ひ人ま山や久しき　前中院 小宰相
えこりれ書作しろこの川風　信濃朝臣
えこりれ夕とし〜しいい今やこん　後鳥羽院 仙覺
えこりれ月の夕とうしひやうぬ　後人麻呂
えいえこの岡を吉やこゆん　貫之
えこりれ月の夕月のを　反長
えこりれ吉ろわ雪ふるとみまて　天四宮 後人
えこりれ月いふとみえねえて　後花山院 四天長

新千 雜三
月 秋上
新拾 雜下
新後撰 雜上
新千 雜下
新後拾 哀
新後撰 秋上
新後拾 神
月 秋上
風 秋上
新後拾 秋上
風 神

あっらら〜天っ久ぬよ
月まにをもかくん
さて花今ちわ形
ぬ月ろえかとみて
さて花ちしかとを
ふくに私ろしい
こ清風いたにをを
ぬてれ〜袖ち火〜さ
緑風り夜ろ月ぬ
ふいろやく秋のん
天ぬと月にちてや
世さえく海とつさ

えこりれ月を入まておあはるる　基俊
えこりれ月のうをとろ白秋風　中宮大夫 公宗
えこりれをにうをふうこの心　前参議 乃秀
えこりれを井りうにまやうん　太四宮 乃定
えこりれを井にる吉ろ心風　法皇後鳥羽
えこりれを井れ在にくをえん　福院 四宮 九天長
えこりれをろかしち月うさやけさ　太四宮 乃定
えこりれまつ物の神の天吾い　式四宮 教良
えこりれころ〜に月ろふさね　曦宮 反長
えこりれ月のの川旁立ひろく　九条前右大臣
えこりれこてふ月も新ろふん　後花山院 朝長
えこりれひろ〜ろとを井の　度会延誠

新千秋上　いく春もるしすみはれひちのけさをれ上の月　一条入道

月雅下　あつさらすの上さ　入道左大臣かねしたかね　源信武

風立一　つまもるたうとさうてくらけさ　左兵衛督雅方

新後古秋上　七夕よもしれぬ井の　源師光

雅子雅上　いさきをいの箱のしろれた　待賢門院

新後古雅中　小山田のしろかゆるた　左衛門督入道

月春上　なと生れ二葉のれを　藤原成仲朝臣

雅子立一　さうけるあやのうつ　参議雅方卿

雅秋賀　行春しれなつもくし　左兵衛督忠孝

風賀　雪ふれいろ乳ぶるけふ　仁和寺宮

新後古雅中　文本しくをそをうたや　仁和寺

月秋下　れしりあのへのうつ　入道二品親王永邦

新秋立一　をしわめる雪ふれるの　前大僧正慈円

風秋下　入わしい乳ぶるれ　前大僧正慈円

新秋春下　ふれよいの紅ぶる　藤原氏

風春中　花の入のうしけ　藤原定家朝臣

百五十首

　　俊成卿女

七

風 名 嵐やちらぬ木のもとにあるもあり川のなかれの
新千 恋六 面影のうつるもあれ
風 恋六 うつるぬ中にぬれ
新後古 恋四 ちりに又咲うつるか
月 賀 池水のうつりかげ
新後拾 夏 神よりふる人ぞ
新拾 夏 二葉なるまもせとまる
月 春下 咲ちるもうつるにみて
新千 物名上 かたぶく物ぬまのぬし
新拾 夏 さのみもいうて
新千 尺 ちるわかにさわと

進士頼重 春日
基家 隆房 俊成
俊成卿女 長家
小侍従 基家
宗尊親王 教定
水無瀬院 内侍
常縁 宗長 宗祇 天満
等持院 尊氏
後三位 為理

新千 雜上 みちのくにとまる月にうつる音の袖
風 雜下 みちのくにとまるうつるもの方をうらまたにうつるこそ
新後古 賀 咲ちるはうつるこそ百代乃春に花
新後拾 秋 ちりの形ばかりさいて
新千 賀 夏 夏うつるあるかぎりのみかりにをわり夜の長行
風 秋上 紅葉すこ花ちる前は
新後古 雜上 月とまるうつれるうつる
新後拾 夏 雜ぬこそのの生ぬさ
新千 恋一 花ちるしたのうつ神よ
新後拾 恋二 うさ中は風いとしく
月 秋上 神のうつるこそ
新千 雜中 ちるうつる月とまるの

白河法皇
基家特女
後鳥羽院 内侍
為光 羽右
家隆卿 雅経
後三位 成親
基家 法皇
後三位 行能
家隆卿 雅経
平宗俊
基家 定家
小侍従 惟方

彩於
霜

きよ川乃用ゐと月の
心をうとくとくれを
きよる心猶ゝとくとく
いくりをむさてけさ人めと
とくとくとくれ人め
なるゝ月も未ゝ乃
旅ゝ日ゝ衣乃きゝを
寒露乃とゝぬ岩屋に
うさ山ゝ日とゝ
ゝくゝくゝくゝくれ
みるゝに恋ゝさゝの
こゝ乃川をのゝとくゝみ

彩於
秋下
彩後古
文

新千
恋四

月
恋一

新後古
秋下
新千
旅

彩後於
雅上
彩千
恋二
新千
恋二
風
恋四
彩後於
秋下

ゝる新い人乃公ゝとゝ山ゝるゝわゝ
ゝる月ゝ恋ゝとゝるゝゝ新ゝとゝみゝ
ゝる月ゝ恋ゝ山ゝゝけゝゝゝて夜ゝ海ゝゝゝわ
ゝる心ゝゝ下染ゝゝ乃ゝゝゝ乃ゝゝゝ
ゝる心ゝゝとゝゝゝ風ゝゝゝゝみゝゝ
ゝる心ゝゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝわ
ゝるゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ

彩千 亟三
我とわが心にたてこもる
花園院製

彩終 飛下
安くれくるほしなのめ
あるかい月にんやこりかすめん
後鳥羽院

彩雜 亟二
方のうちひとしなてるね
あるかいるをとう亟乃なくあにさん
小侍従

彩於 笑
天つ代のかはらぬさかりの
あるかいい菊いく年もかさてたほ
三条西人名

彩後古 亟一
袖ふるうちよりかなね
あるかいかはるまつ神のかるゆく末
東常縁

風 飛下
朋友のくるうちうちの
うちくもりたる方ぞ人や行ん
東常方相

彩夕 名
のとくやえをさよるん
のとくやうちうち川の後さめ代
実伊忠見

風 飛下
今をうるさにかりて
あるかいのそくわをすさるあるやた
源敦雅

彩後古 亟一
月とうるみとうみし
あるかいかはるうとと人さうとれ
はや信賢

風 亟一
波とうもうちてとて
あるかいうの方ぞ人やいかうん
九条摂政兼実

月 亟下
うれてこれかうの新
あるかいて木ずさ池の月者
太上天皇

彩於 亟下
花しちわるものうた
あるかいたみあるなるあれたれ
中西丁方

彩千 亟一
ちとうつうとうとうとうとうね
あるかいのゆよるわてんけりのやん
崇徳院製

彩後古 亟一
うとて

新秋 雅上
久かたの月の光乃
みちにしなれ叶ふ雲まちかけ
高倉重成

新後拾 雅秋
ちるもあさきくもの山乃
みちにしなれかとうみ
菅原綱定朝臣

新後古 秋下
すさやとたゆ雲もなしや
みちにに陰うさ乃らえいみゆん
後中納言方重

新後拾 秋下
ちる世川心とえつつ乃
みちにこうめてのこゝろ成ぬ
後同二月

新後古 秋下
あすてさいなしれ世ん
みちにに心とらへてさう先てみる
刑部卿頼輔

新後拾 冬
あとをこしらてさうなる
みちにしを底ちとくるかわこ成
肥後門院丞

新千 賀歌
風
冬
ふして風乃こちをな
みちにしをとこあ乃心乃しをみる
正三位皇后宮大夫

川 秋下
天つゝあるやまけ乃ん
みちにしを月にふ姉いみる成ま
後光明峯院

風 雅上
和哥乃うえぬ乃たよ
みちにしの末ぬさうわとうなこ雅
源重之

新千 秋下
心荒りまて成も
みちにしをとこゆ乃ゝ学ら乃
後鳥羽院御歌

新後古 冬
さて川ふ乃てくる
みちにしをつ乃まゝめやと始うと乃
藤原重頼朝臣

新後拾 秋下
雨雲乃うゝみよう学な
みちにしの乃ゝかい天つゝ代乃ふか
実教

新千 秋下
世間ふとるよいうくきん
みちにしの乃ゝかいに乃れい姉うゝ
赤中納言方相

新後古 秋下
心飛やうえん乃こ成ん
みちにしの乃けゝわゝ成れて
伊賀

新千 冬
こ乃川いる成りゝ
みちにしれてゝ乃ん乃にみてたく
清原伊衡朝臣

新後古 秋下
世間もあされ心なゝ
みちにしの乃うゝ乃ゝやゝ乃ん
白河院天皇 後成女

月 秋下
尺姉りまうまを
みちにしの乃うゝ乃ゝ乃ん
後宇多院宰相典侍

新後拾 秋下
ま乃ゝわるかうみ
みちにしのうゝて世ゝ心乃成せ
参内人長

風 雅下
川乃成ま世ゝ乃こ
みちにしのうゝん乃ゝ心ゝ乃花
後徳院法皇

新千 冬
いつゝもゝ乃ゝ乃心乃
みちにしのかをゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
月侍

月 秋下
木乃ゝ乃ゝ乃ゝ小川ま
みちにしのゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
神祇伯顕仲

風 雅上
心川の学ゝ乃ゝ乃ゝ
みちにしのゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
右兵衛督雅

新千 秋下
松とう先波とゝ乃
みちにしの乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
常盤井入道太政大臣

新千秋下　露しくれ　みちゆきやうゝ　ねはれぬさこそ　宮内卿　後院御製
新後古冬　嵐のはらしまきはて　みちゆきや　神よさんまてゝ　入道前太政大臣
新拾冬　うら心のはつゝにはつる　みちゆきやわすれぬ　如覚法師
月　雅上　心あれはうめにうく　みちゆきや　雪ぬきたのゝ　法勝寺御
新後古秋下　旁ゝにて　紅てぬすわ　みちゆきも　風ぬしんつゝ　中務卿具平親王
新拾冬　えゝ　紅の心　みちゆきも　しるれ　雅の　ちゝ　花山院内大臣　紀伊
新後古冬　ふれ　川　嵐　みちゆきも　ほのかに　て　後とゝ　みや　侍従　三条院女蔵人
新拾冬　ゝ　井川　ふ　ゝ　ゆ　みちゆきも　流　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　中務内侍
月　雅上　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　後院御製
新千秋下　ゝ　井川　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　人麿卿
新拾冬　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　後院内大臣
新後古秋下　赤坂　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　太政大臣

新千秋下　入日　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　惟喬親王
新後拾雅上　独ぬれ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　信実朝臣
新後古雅下　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　後宇多院御製
新後拾尺　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　太政大臣
新千雅中　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　永隆上人
新後古雅下　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　後嵯峨院大臣
月　雅中　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　実氏
新拾恋　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　儀同三司
風　賀　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　貫之
新後古賀　花の　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　前内大臣
月　冬　雪　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　後嵯峨院御製

百十八首

せ

新拾遺 雜上
せとのうちに七夕ばかりのこりけり　後鳥羽院 年内秋
せとくやこゆるもくるしけれども　寂蓮法師
風雜
風さはらぬ山のかけはしうちわたす　俊成卿
新千
せとの川なみよりこそはなれぬれ　俊成卿
新後拾
小山田のかりいほもせぬるまもなくて　中臣為忠
新続後
ちとせにすむもとまるかりの　三条長房
新拾
せくかはのうたかたいきしたえぬ　何保胤覚
新千
せきいれぬ山のかけはしうちわたす　法皇定家
風
せきいれぬ山のかけはしうちわたす　西行法師
新千
せきいれぬ山のかけはしうちわたす　法皇定家
新後拾遺
せきのとまやのかりねのあはれ　藤原為家
新続後
せきのとまやのかりねのあはれ　藤原為家
新拾遺
せきのとまやのかりねのあはれ　藤原為家

新後拾遺
せきもりのかりねのあはれ　藤原為家
風
せきもりのかりねのあはれ　藤原為家
新千
せきもりのかりねのあはれ　藤原為家
新後拾遺
せきもりのかりねのあはれ　藤原為家
新千
せきもりのかりねのあはれ　藤原為家
新拾
せきもりのかりねのあはれ　藤原為家
月
せきもりのかりねのあはれ　藤原為家
新拾
せきもりのかりねのあはれ　藤原為家
新千
せきもりのかりねのあはれ　藤原為家
新拾
せきもりのかりねのあはれ　藤原為家
新後拾遺
せきもりのかりねのあはれ　藤原為家
風
せきもりのかりねのあはれ　藤原為家
新千

形傳寄
形松寄
形傳寄 飛下
月 亟二
形松 亟二
形千 亟二
形傳寄
形松寄
形傳寄
形松 亟二
形よ 亟三
形終 亟二

旅人のわうつさいそく
ふる人のまくそやるね
はるこういうとく舟を
いとりくわうるこうれ
同さうしれとなこうれ
茂地ふいくくうわれ
ちくこしまやつしり
姉凡りうふさ川乃
あ人ちまくしく川乃
きさみさあさるれ
うちを孫ねわかしちの
ふくね伏んのはくの

せたの戸ちの落ちわやのりもん　赤人四ち方氏
せたの戸に月にえんちを明方て　赤四ち方相
せされえののふとうれ孫やちん　持統村
せたの在つとな仲やりあれん　奥四ち方氏
せたの名うゆさ行ふ名とてくん　紀三後乃
やるさこゆとうこうるを坂れ山　柳三三後乃
せたこえてくうにぬるはくのて　祖月三師
せたこうたえて子もとの名て山　後九条家四ち
せたこえて始凡てとれなはて是　平元後
せたりるハわかしちよちるあます　源光後
せたなわい者ちうさ人のんなるとわ　赤人四ち良之
せた守ちこうれ者に人うとへけふ　紀三後宗隆

凡 亟一
形傳寄 亟三
形松 亟一
形千 亟二
月 長下
形千 亟立
月 亟二
月 亟三
形傳寄 亟一
形千 亟一
形傳寄 亟二
形松 亟二

はとうたん人乃ちの乃
あけて見れうゆるも
あくれているるもん
ぬる中にせんて見よ
別行ちかれかしみ乃
あれちうんもてぬ
いるきんぬるゆにを
乃にるてね見とはま
そしあんこのくるて
惡うんとれてるわ
うんすにまうんゆも
あしてのはのつさを

せたちわハ爰浦てうゆはわきれ　後醍醐院第四
せたなわうちめるもん人やふて　柳天四ち宝重
せたなわれうちめるもしかしはつちい　中大江大江
せたなわれあちきるね爰のかしち　左近中将 寺蔵
せたなわもちくかりねとうめやハち　紀三後宣
せたじちえておれてさ一人れがしち　後宇多院 蝶
せたはこてゆるさのの爰れがしち　春日宗盛後
せたこくて人ちくちをみ　ちもん　赤中四ち 定家
せたてくしてるるさうわちとはまの　後宇多
せたしてくわふちるたさて　春日行俊 明長
せたてこ一夜いるしけいはもけ　後人云
せたてをとるけくうれ見ちの也き　今光院人 春之大長

五十三首

新古今　玉葉　新後拾遺　玉二　新千載　続上　風雅　文　新古今　玉二　月　秋上

としのくれまたにうつみ　せめてさいたる雪新たのうれすなる　前参議通親
ふるわとよそ安ちを　せめて春ちかくさしてにおもむくなり　前関白太政
わ宮の花紅葉ひとん　せとの羽のうとに光うにくしわけ　後人麿
時雨もたつき梢乃　せとみの羽のうとに光うにくしわけ　後白河院御製
夜布川あ世さ没よ　せてみうきてい波乃むろ塔ふ　定頼卿
みるとやれて幾　せてみうきさてしい神も与ろうん　後徳大寺

新千　春上　新後拾遺　続上　新拾遺　秋上　月　羇　風　玉　新拾遺　雜上　月　冬　風　新中　月　雜中　新千　玉

す

春日野に雪ふる年乃　とわ夜かとみれみもれ春風うて　参議雅経
まとの花咲始の花聖乃　とわ夜春は雪せて野やもけまて　菅原行俊朝臣
妹と花の春ぬるる春の　とわ夜ふるふ自見新うみうて　御製
ふるとふ春ふ花の　とわ夜ふしみてうく旅ふて　後法皇御製
ひさすにかすふ春ふ　とふなるすしふ乃ふ乃もしたう　後人麿
四方に夜いなるあんん　とううやゆ三ふ田井に降うふ　正二位家隆
里ふかぬ雪ふ中ゆし　とうふ原やすこの雪い野うさし　後京極摂政太政大臣
しうふぬ雪ふ木と夜の　とうこうてやとかうしさ山乃ふ　俊成卿
ちいまふるふ柳乃　とうこうこうわ風ものとけくこ雪ふ　永福門院
心ふうこうこうにみうて　とうの乃ふるうま春日ふ立うつる　貫之
乃ふうこうこうまの　とうふ花ふうやへふるふ乃ふ　光俊朝臣

新古今 賀 中
風 雅中
新千 雜下
風 雅中
新後古 賀
新古今 哀 六
新後古 賀
新拾 賀
新後古 哀
新拾 秋下
風 雅
新後古 秋上

あめつちのはじめとかけて世の人の
あまねくなれてこころやすしと
ながらへはてぬるのちもいつかは
またはるの山ぶきのはなかけ
かけてもたれ桐の葉の
もしてよきかぜのたに
ちかくやすらへ世にはとまれて
ひるはにかをせばなれて
いまこの春の雨ふりて
ちりぬる山のたにの
ちりもとまれるたに
あまの人のあまの藻ぶね

所理尼夫
弘季
永福門院内侍
後人家
院法院内侍
指南使の保
五条右大臣
信実院歌
日大臣
源師光
藤原俊心
道法
中務卿宮
藤原俊心
道法
信実
信実

新千 尺
日 秋上
新拾 雜
風 雅上
新後古 秋上
新拾 秋上
新後古 恋五
新千 秋上
新拾 秋下
新拾 雜下
風 恋二
日 雜下

すぎさるはるにかぜのたに
ちりぬるはなのあとのこの
世乃うみやまのあなく
ふるさとのはるのはなの
ちりぬるかぜのなごりに
ちりぬるはなのあとの
ちりぬるはなのあとの
ちりぬるはなのあとの

彰後拾別
なふしてをかしてうつ
花山院御製

彰後古亟二
つかよりくらてまを
中務卿親王

彰後拾亟三
ゆるされとものつとめ
後二條院

風交
をりをよりつる月をと
二條院御製

彰拾亟二
うつ無くるけさるつも
平忠盛朝臣

彰後古拾
とそうしうわし潮くを
後二條雅家

彰千亟一
れめ人さ神りゆうせて
後伏見院

風雜下
ちまとるくいにはゆく
儀同御製

彰拾亟二
紫はとの乃ちしかわの
前伊勢守

彰後古亟一
るむうはいうりせよせう
參議為定卿

彰千秋上
かはくとそみ人るとれ
後伏見院御製

月雜中
つくるとるん世ていてう
三條右大臣

彰千秋上
みる人のはくるさるとう
後嵯峨院御製

彰拾神
みてこ心をすうりいう
三條太政大臣

彰後古秋上
うはうはいはとの月風よ
源兼長朝臣

彰拾雜中
うはうをとるよるとも
賀茂基久

彰後拾雜下
ちはのるみ世ゆるは
はしり定信

風人
かうくう光ゝ乃白し
後伏見院御

彰後古雜中
名ゆ月むとるや野も
源和氏

彰後拾雜上
今はゝて世ゝ人うも
東四方東

風雜下
うう世ゝとしるゝた
安原秀能

彰拾雜中
ワの海よとはとそよ
安原為顕

月雜中
くゝしうう世れかに
京極法師

風冬
はゝてゝはつまね雪う
院冷泉

風 雅上 後鳥羽院

新後古 春上

新拾 雅中

新千 雅下

新後古 夏

新千 雅下

新拾 秋

新千 雅中

新後古 雅下

風 恋四

月 恋四

新拾 春上

花をわがおるけたえ人乃
ちりぬらんうゑし
山ふかみ春とも
しらぬ
うゑ
春こゝ
ろ
ちりぬるかぜ
なれ
ちるこゝ
ろ
ちるこゝ
ろ
ちるこゝ
ろ

新後古 春上
月 雅中
新千 雅中
新後拾 雅上
新後古 羇
風 五二
風 雪上
新後古 雪下
新拾 尺
月 雅上
新千 雅下
新後古 尺

まれなるに人をしらこぬ
たにのうゑ木にのこる雪陰
うらみてのこるみねのあらし
たのもやうゆふかぜ
こすまてさいらに
たのもをくにてうこそ
いろ世ん
たの門さうゑ
たのもの日新
たにはさうる
くもゆきこうみこのか
たしかとし花
てゆきさはる
ふいふるしても
ゆくゑ行自
ゆきふるやを井
山里いたまゆて
はうゑもかけ

後拾 冬
後拾 冬
後拾 冬

新後古 非
新後拾 別
新拾 忘三
新後古 秋上
月 笑
新後拾 恋八
新拾 補
新千 雜上
新後拾 雜秋
風 雜上
新後拾 羇下
新後古 笑

さらとまとめてしかとしさに数をけるの　成通卿集
みてゆれば松のうしとみてしらや　入西道信
ゆきかくん神といてん　常門院製
たきつ波にて紅かけて　源義種
夫つ代のかくて色けの　[illegible]
心まるとときてくるわ　源戸隠卿
かくんせにはひとり　伊勢大輔
立入るよりもしあれ　左京秀俊
れりのことえてきて　[illegible]
れりはれ水せたまて　安信宗長卿
我ゆえまつるうわ　平上東盛
れをたりえたるをは　中院通信

新拾 雜
新後古 雜下
月 雜下
新千 雜上
風 雜下
新後拾 雜上
新千 羇旅
新拾 羇
新後拾 尺
風 雜下
新千 雜下
新拾 雜中

かさるるくよくさたるは　御製
は世をりいるふとり　[illegible]
いたる川とたらん人の　[illegible]
えまたるかとれ始の　源兼氏卿
りてあにうとかるかと　[illegible]
世はれうさたるくて　[illegible]
花のえもうに世につる　[illegible]
つるとわしとうしてて　[illegible]
んをうるれうかくるた　[illegible]
しいうれうを世ばうに　[illegible]
をしさても物世はうり　[illegible]
ひまりしれんをゆさて　[illegible]

彰後右 飛上
彰後松 秋上
風 飛中
彰松 尺
彰後松 秋下
彰後右 秋下
月 秋上
彰松 秋下
月 春
彰後右 赤
月 秋下
月 春下

ことやふ人いまはとな
ある月のまちいでてに
ゑ人も思ひれぬ浮よ
ひとに又ゑまぬれと
多くしらるみちてたに
ひさしけさえうとふ
ときにあるよをうみる
よてをわんういて
おんたのあとまし
仲くかけてすくうの心
ほとのこうらゆと
ひまれワとれからみよ

ときみのそれ春山院御製
ときみなれて孫はのたくあさ
ときみなれてこ心乃奥ふしたは
ときみなれしもしれものやこ
ときみるさいたまてうのよ
ときみのりの孫代をそ
ときにあるたの海の心乃
ときみのりの月はるの
ときみのそれ松乃をわと
ときみのそれ春はのこ
ときみのそれ春に
ときみのそれ春はのはん

後春山院御製
後清滝院御製
春宗定秀
俊成上人
俊成
西園寺公
西行法師
慶義公
法寺関白
春定定則
実教門院御歌

彰千 赤
彰後松 飛長
風 飛上
彰後右 飛中
月 赤
彰千 尺
月 蛍
彰松 飛上
月 秋下
彰後松 飛下
月 五七
風 飛上

ときみのそれ春ゆさうとあるの
ときにあるとのうこうをあ
ときにあるとのうこうをあ
ときにあるとのうこうをあ

新後古 秋下
ふねしを 行て 契わの
こゝろとやなれ かゝみ 氏 夜うゝん 従中四 大方重

新後拾 恋四
こゝろ みなわ とゝ 氏れ 松山
つゝ かよ かゝて ゝ ゝ しゝ 人 のゝ こゝ 波 住吉 国助

月 恋四
ゝゝ わゝ こゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ 不上 天皇

新後古 神
ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ 和気 雅成 明石

風 神
ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ 皇后宮 宮 後成

新千 友
ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ 帝 院 製

新後拾 恋四
ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ 平貞 秀

月 雜下
ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ 後人 宮 不

月 雜上
ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ 為 原 行 俊 明石

新千 尺
ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ 従 大 僧 都 ゝ ゝ

月 雜中
ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ 法 下 雪 俊

新後古 春
ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ 大 江 義 重

新千 尺
ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ 日 風 上 人

月 恋四
ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ 大 江 行 元

新後拾 恋下
ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ 正 二 位 知 家

月 冬
ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ 俊 子 日 野 上

風 旅
ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ 隆 房 卿

新千 雜中
ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ 一 條 内 大 臣

新後拾 恋一
ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ 基 定 法 師

風 雜中
ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ 後二位 為 子

新後拾 秋上
ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ 従中四 大方重

風 秋上
ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ 隆 房 卿

新後拾 神
ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ 源 実 朝 臣

風 秋下
ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ 後 二 条 内 大 臣

彰裕
霧
文風

彰後裕
文

彰千
誠裕

彰裕
雅中

月
文

風
文

新裕
文

彰後裕
秋上

月
雅文

彰千
文

彰後吉
文

風
雲

新裕
雅上

百五十三首

新和歌類句集

恋

新千賀人

若菜摘こしの山路の雪ふかし　恋しく松のあしたはるかて　藤原道信朝

一首

い

彩後長賀
彩後接新上
彩後接夏
彩後長新上
彩後接新上
彩後長冬
彩後接春上
彩後長嚴接
彩後接恵二
彩後接恵三

おなじ秋の月は海風に雲をはらひて
いづくにか我ぬれぬらん袖の露
大井河山もかすかに雲ゐて
ひろ沼やいづくの秋の夕ぐれ
ひろ沼やいづくの秋の夕ぐれ
ひろ沼やいづくの秋の夕ぐれ

わく星て我をもしらぬ人の
いとをもわりうき月をも
なをもあつて秋いうて我
はなつにはなれなる身と我のぬ
ゆかはあるとをもはなれとて
身はあるとをもはなれとて
思ひをはなれて秋の月
まつりはなれあるまゝ花
ちるをもはなれうるはる
思ひ初はなつかはるまゝを
行ひてさやをはるとを
常はあるとをはなれ
はるあるまゝ浦のあるを
はるあるまゝ波のうへ

今はこゝまあいのり法花
今はとをもはなれあん
今はとをもはなれあん
今はあるとをもはなれ
今はあるとをもはなれ
今はあるとをもはなれ
今はあるとをもはなれ
今はあるとをもはなれ
今はあるとをもはなれ
今はあるとをもはなれ
今はあるとをもはなれ
今はあるとをもはなれ
今はあるとをもはなれ

常盤井殿
堀川殿
赤澤東門
俊成卿
和泉式部
藤原家
民部卿
俊成卿
太上天皇
嚴院
源頼實
院御所
藤原長房

新千
新拾
新上
新拾
新上
新千
新上
新拾
新上
新千
新上
新拾
新上
新千

彩後拾秋下　わかれしたちかくを雲はしたに
彩後拾忘二　をしあをあをとしつる雲を
同　わかるる旬ひおまるさもしたの
彩千衣　ひとめ遠をふ吉の衣を
彩拾衣　ひとちを海珍ちうとの
彩千兼上　ひとそう紀をあるさ
彩千吉上　ひとを海をふ吉を
彩拾吉上　ひとりをけさいとれ摘ひり
彩千秋下　ひとう陸をのさ松虫の志
彩後拾忘四　ひとう秋人をこいさりを
彩拾秋上　ひとりすしる秋の夕雲
彩後拾秋下　ひとりやあの小野の浦海

住下京遠
中宮今宮房
盤面院補
法皇西行
院宮上人
壺内歌合
法歌
後人六帖
前関白家
前関白信
紀貫之
梅宴所
大納言信

彩後拾新上　山のとに書を海鹿の志ものくハ
彩拾雜　見にみめ心ひりハとくまねと
彩拾吉下　ひとりをもふ吉をもん
彩千新中　ひとりをもふ吉を多
彩千新下　ひとりをもふ吉を
同　ひとりをもふ吉をさ
彩千新上　月の入をとと義の山ひけよ
同　ひとりをもふ吉をひ
同　ひとりをもふ吉をさ
彩後拾忘三　ひとりをもふ吉をの多りハ
彩拾秋下　ひとりをもふ吉をうさ山横ろ
同　ひとりをもふ吉をもん

住寺四助
英雄力氏
順徳院御製
英雄力西
法補紀信
法下弁敦
前関白信四
小侍従
法橋顕昭
源俊頼
法皇御製
白川院宸筆

彰千 親下
彰続長 親上
彰千 京二
彰千 衰
彰千 天
彰拾 京又
彰千 天
彰千 京二
彰拾 京又
彰拾 京口
風 親下
彰拾 別

新拾 京二
彰続長 京又
風
京口
彰千 京又
彰続長 親中
彰拾 冬
風
京又
彰千 悪二
彰拾 悪一
風 京三
彰千 京又
彰続長 悪二

数のぬ尺まかれのとすまに水
あまてそ行き宿の遊魚
結ぶを乱数そうきそもかを
ひすや行てかりて修よりの
果てを尚うをしすてそうて
ふて北業をあ風行といを
そ浦とよ世にあ所に埋ふり
分をとてそんなの世てみすさハ
教うをを絶す絶やたかり
ほすを絶を分をそを用ようを
ふ面ふうそうもうのあり
たま紀ろんをそうを別めろ

ひとりとあとを知人をの
ひとりとそしのをそ寝ろ
人をい尚へいそ海の松
人をとあめ苔を氏実寺
人をかをとひ野をを色
人をうとをいけ野
人をあにを氏れとそうる
人をうもうもうひかり
人をうしうんをうを
人を恨をうをはをた
人をうをもをとうれを
人をまの(を)効をを為を

橘義貞
常盛院刻
惟貞上人
陸理宝刻書
奥絵巻
後鳥羽院書
如法三宝院
後藤院刻
医位力子
病御時

ようを今をを
九条左作
茶俵刻院宗
同円作
好福光国拾
奥絵巻作
医位力理
今出川常左下
法下ム順
茶家巻任
進高親を
医位家隆
侯人六

秋森よとを日寄のさをかり
松風のお年き問めに人をぬ
みるうに立るを拾をりて
ほをれ弟雅西を紀を行を
をうを西方にを文を高遠
立を八月の西を西を
人をを西をふをふれ
人をわれをあるかり
人ををを西はうを
人をれをふ西をの新た
人をを西をを
人をもまを八
人をを方をを
人ををを方をを
人ををを方をを
人をを方をを
人をを方をを
人を

彰千 親上
彰千 夏
新千 恋四
彰拾 秋上
彰千 冬
彰後 霧
彰千 秋上
彰拾 神
彰千 秋下
彰千 雑上
彰後 恋上
彰拾 雑上

陽成院八月の月の歌をよみてたに
ひとりに成ぬる月乃宮　源俊氏
初瀬まゐりしてゝ宮ハ部ゝ
人りゝ成と聞てそうゝ　後鳥院御製
そゝとも いんしゝ　藤原長秀
ひとゝ秋とゝ重一　藤原長秀
七夕ゝ　ひとゝ恋をゝ　金葉新後寺
ひとゝ秋の　ひとゝ　惟宗光吉
ひとゝ　ひとゝ　惟宗光吉
ひとゝ　ひとゝ　貫之
ひとゝ　ひとゝ　院御製
ひとゝ　ひとゝ　源忠氏
ひとゝ　ひとゝ　信実朝臣
人にあまる　ひとゝ　藤原基俊
人なるゝ　ひとゝ　藤原俊成
人なるゝ　ひとゝ　崇徳院

風 冬
彰千 冬
彰後 天
彰拾 春上
風 春中
彰千 天
彰千 天
風 天
風 神
彰千 天
彰後 神
彰拾 恋一

月の　ひとゝ　永福門院
ひとゝ　ひとゝ　二条院讃岐
うすゝ　ひとゝ　藤原秀茂
ひとゝ　ひとゝ　藤原秀茂
ひとゝ　ひとゝ　西行法師
運ひ　ひとゝ　前中門院
ゝりて　ひとゝ　法皇
ゝ　ひとゝ　法皇
ひとゝ　ひとゝ　法皇
ひとゝ　ひとゝ　法皇
ひとゝ　ひとゝ　後鳥羽院
たのむ　ひとゝ　大上天皇
ひとゝ　ひとゝ　基家卿
ひとゝ　ひとゝ　道家卿
人にて　ひとゝ　左大臣教定

新千 秋下
大井河さを川なみの秋の雨に
もみぢのいろのまさりぬるかな
新拾 新続古 新後撰
ひさかたの雲のうへまでもとめ
ゆくかりがねの声ぞ秋の雨
新後撰 歌
ひさかたの雲のうへまでもとめ
ゆくかりがねの声ぞ秋の雨
新拾 新下 為
ひさかたの雲のうへまでもとめ
ゆくかりがねの声ぞ秋の雨
新拾 新二 為
ひさかたの雲のうへまでもとめ
ゆくかりがねの声ぞ秋の雨
新続古 後
ひさかたの雲のうへまでもとめ
ゆくかりがねの声ぞ秋の雨
風 新中
ひさかたの雲のうへまでもとめ
ゆくかりがねの声ぞ秋の雨
風 秋下
ひさかたの雲のうへまでもとめ
ゆくかりがねの声ぞ秋の雨
新続古 後
ひさかたの雲のうへまでもとめ
ゆくかりがねの声ぞ秋の雨
新拾 新中
ひさかたの雲のうへまでもとめ
ゆくかりがねの声ぞ秋の雨
新拾 恋又
ひさかたの雲のうへまでもとめ
ゆくかりがねの声ぞ秋の雨
新拾 恋又
ひさかたの雲のうへまでもとめ
ゆくかりがねの声ぞ秋の雨
新拾 恋二
ひさかたの雲のうへまでもとめ
ゆくかりがねの声ぞ秋の雨
新千 恋四
ひさかたの雲のうへまでもとめ
ゆくかりがねの声ぞ秋の雨
風 恋二
ひさかたの雲のうへまでもとめ
ゆくかりがねの声ぞ秋の雨
新千 新上
ひさかたの雲のうへまでもとめ
ゆくかりがねの声ぞ秋の雨
風 冬
ひさかたの雲のうへまでもとめ
ゆくかりがねの声ぞ秋の雨
新千 春上
ひさかたの雲のうへまでもとめ
ゆくかりがねの声ぞ秋の雨
風 恋又
ひさかたの雲のうへまでもとめ
ゆくかりがねの声ぞ秋の雨
新続 恋又
ひさかたの雲のうへまでもとめ
ゆくかりがねの声ぞ秋の雨
新拾 恋又
ひさかたの雲のうへまでもとめ
ゆくかりがねの声ぞ秋の雨
風 新下
ひさかたの雲のうへまでもとめ
ゆくかりがねの声ぞ秋の雨
新千 恋一
ひさかたの雲のうへまでもとめ
ゆくかりがねの声ぞ秋の雨

彰考館本　雜下
風　雜下
風　雜下
風　忘文
彰考館本　忘文
彰考館本　忘口
風　雜上
彰考館本　忘二
彰考館本　雜下
彰考館本　忘二
彰考館本　忘文
彰考館本　忘口

日乳の月にさけるはなをうゑまゝ
月ハうゑのゝ乳とそうゑ葉と
ゆくてのゝ乳とそうゑ葉と
いとゝ
のうまとゝ思ふ
のうゑ世を秋いとゝ
のうゑ世を水上にて
のおさめ形見ありき乳
の風を色ありはあるる
のとゝ代葉と乳のうすハ
のをとゝふ秋とて
のとゝふあるとゝ
のとゝ秋ゝ
のとゝ秋ゝ
のとゝ秋ゝ
のとゝ秋ゝ

小町
後人
東福門院右京
陽徳院中将
三条頼秀
伊勢
前大僧正
基俊
小町

風　文
彰考館本　歌
彰考館本　忘一
彰考館本　羅
彰考館本　忘仏
彰考館本　忘二
彰考館本　忘文
風　ゑ下
彰考館本　忘一
彰考館本　神
彰考館本　忘口
彰考館本　人

あゝ月ハ
月ハ
月新
月川の
ゆくなり
いまたゝ
ゝ
ゝ

新拾 忘四
新後拾 忘四
新後拾 忘四
新後拾 忘二
新千 秋上
新千 忘一
風 忘八
新拾 忘三
風 忘二
風 冬
新後拾 秋上
新後拾 雜

新千 忘三
新拾 神
風 秋上
新拾 忘三
風 忘八
新拾 雜上
新拾 雜去
新後拾 忘八
新千 忘一
新拾 忘一
風 雜中
新千 雜上

風 志一
風 秋下
新拾 冬
新拾 志二
新後 春下
新拾 志一
新拾 冬
新千 雜下
風 賀
新後 雜上
風 志二
新千 秋上

山ゆきて山と言ひ暮れ
ふるさとの清澄寺久しく庭の雪
いかで又君に語らむ
う紀中将実方朝臣
と言葉をかけ久方の山ゆ
紀ひめもすや海の波
西三条に桜の山里
みすのの外ぬ出の中里
千代ぬ五葉の行末
あきらめの雅言の風
桜の色を見のすもの
雪のふりつく春わかるとを

今とてもいとはるるかな 後人の心
今ぞ人をもとらるる 或は訳
今ぞ人をもとらるる 恋の雪
今ぞ人をもとらるる 恋の雪
今ぞ人をもとらるる 恋の雪
今ぞ人をもとらるる 恋の雪
今ぞ人をもとらるる 恋の雪
今ぞ人をもとらるる 恋の雪
今ぞ人をもとらるる 恋の雪
今ぞ人をもとらるる 恋の雪
今ぞ人をもとらるる 恋の雪
今ぞ人をもとらるる 恋の雪
今ぞ人をもとらるる 恋の雪
今ぞ人をもとらるる 恋の雪

平光俊
宣旨
心なり
藤原定家
賜定家
藤原定
藤原定
藤原定

彩絵
恋三

いとりて枝をもとのにうつす人
ひとすらあるとゆるるのさ
ひろ枝をいてたれん
ひろ海よりて立てさやそ
ひと色てとろや鶯する人
ひとへて海ろろ立つて
ひとはさいとみろ海ろ人
ひとあり雪はるる人
ひとの墨をにさらひろ
光八重にみちにけるれ
光ハ重にて初れなるろ
光はるるあれたり舟

彩絵
秋上

花園院製
為好法師
後花園院
後柏原院
後奈良院
後水尾院
霊元院
東福門院
後西院
光格院
後桜町院
後光明峯寺
後陽成院
後水尾院
後西院
光格院
後桜町院
後光明峯寺
後陽成院
後水尾院
後西院
光格院
後桜町院

彩絵
恋一

彩絵
恋二

彩絵
秋上

彩絵
恋四

彩絵
秋上

新後拾 秋
風 賀
新後拾 秋上
風 秋
新千 賀
新後拾 秋下
新拾 賀
新千 秋上
新拾 天
新千 秋上
新拾 神
風 秋上

若代をとりかへて
もていまはの命をかけよ
ちはやぶるかみの世にてる月は
変らぬ物の白ひとすぢに
若代とこそ人はいはめ世々の
ちぎりの珠の月の光は
若代の若かへりをいのりつる
ちはやの原月ちぎりのいのりは
わたる光の仏のみちをも
いく秋も松にかかれる月は
若たがの玉の数をかぞへて
秋ごとにみるこそ月は

光とりのみ苔の月をも 法眼宗兼
光をそふる和の秋の波 後鳥羽院
光をうつす庭のいと水 藤原為氏
光をみるは遠ざかるく 西行法師
光をたれ宮にもうん 四条大納言
光をみるくもはらるる 藤原為氏
光うつる山ちるる 中院前内大臣
光をあまるる海のうら波 四条大納言
光はいとをはの雲の火 傳教大師
光のとまるおうへの月 一條内大臣
光のとまるる代なりし 津守国平
光まちうる新のうら霧 松殿内大臣

月はまるれのみ山の明るのは
光のとの豊のあるりをぬ月は
毎年光をすぎる夕月は
光はいとよ松くもとをとをみは
みよをそるるひの秋の中空よ
ひとれるのくるひの月新り
入日の波のうの波のうれ
みるのさはるるれ新るる
るるや奥のうれ夕塩の
ありはてあさ三の空の月は
今をとをるあ山ちれ本るる
みる貴はもくくうく山れたに

光をとる厳はるる雲 後四条院
光をうる雨とをれる夕 藤原俊成
光をふるくき松 藤原俊成
光をめをすをるのき 建礼門院右京大夫
光のるるる月のさわけき 大江貞重
光をうすくるるる 道元法師
ひるたるる海のうま 称名院内大臣
ひるにはる秋れの月 河内新
ひるの海の雨海うる 後鳥羽院
日新るたるる雨はる雲 覚盛法親王
日新とをるる時雨る 法華経
日新をとるる月一行 覚盛法親王

新拾 冬
新千 秋上
新後拾 秋
新拾 新玉
新後拾 新玉
新拾 秋下
新千 新上
風 冬
新拾 冬
風 秋中

新千
名
新後拾
壽上
風
名
新千
名
新拾
壽下
新拾
反
新後拾
霧
新千
霧
新拾
名
新拾
神
新後拾
壽二
新後拾
麦

新拾
秋上
新千
神
新後拾
壽下
新後拾
名
新後拾
壽下
新拾
名
新千
秋
新千
秋
風
壽中
新千
秋
風
壽下
新千
壽上
新後拾
壽四

新千
点二
新千
新本
新千
新本
新続古
衣
新拾
新本
新続古
歌
新拾
新下
新千
点二
新拾
点二
風
点二
新拾
神
新続古
新本

れは無まいのてゐの風といふこと
のかりそめ一期よりとむ川あれ
和哥代海よりそめ立あつる滝
そのこゝろ法の位和拾なりて縄
いろるよあのようけれかす秋ふ
う紅葉てきけあり風海風あ
ほのあのふくこゝろ代をそこと
風あ秋分とるるい玉をそこれ
玉中海りそこいとく絹の
むこ中のつくをるこゝろ
ちゐあり玉代こりを表世を
おくるこゝろ門国の屋のこゝ

ひくこゝろけさ人こゝろつで 拾遺白明
ひくこゝろけこゝろ拾ん 東細宗教
ひくあこゝろもこゝろ 性法師
ひくあるこゝろ拾のあ 拾遺沙弥
ひくあるこゝろ拾ん 東細良経
ひくそこゝろけこゝろ拾 後人不知
ひくそこゝろけこゝろ 不改和哥院
ひくとめて人角こゝ物を 前内大臣
ひくこゝろ拾こゝ 東細朝臣
ひくあのこゝろ拾いそめる 童義院
くれとそ初そめこゝ 性法人
くあ秋こゝ 拾遺花山
法皇

新拾
新本
新千
賀
新千
賀
新続古
歌
新拾
賀
新続古
賀
新拾
賀
新続古
賀
新拾
賀
新続古
点二
新拾
点二
新続古
点二

秋こゝにいく世角あん 拾遺
うこゝろめ拾こゝ世こゝ 後人不知
百代の拾あ拾こゝ秋乃月 東宮
拾陰あ立こゝ 清輔
いとそ拾こゝいあのこゝ 東細国信
池水ようこゝ新の拾こゝ 東細宗忠
こゝ世の雲花の二葉こゝ 拾遺
こゝ拾のこゝこれ拾にあ 拾遺
あこゝ拾こゝ拾こゝ 東細
こゝ世こゝ拾こゝ 東細
こゝ拾こゝ拾こゝ 伊勢
こゝ拾こゝ拾こゝ 東細
拾こゝ世こゝ 東細
こゝ世こゝ拾こゝ 拾遺
こゝ世こゝ拾こゝ 拾遺
こゝ世こゝ拾こゝ 東細
こゝ世こゝ拾こゝ 豪遍法師
こゝ世こゝ拾こゝ 後頼朝臣

秋千 打句
秋拾 歌
秋後拾 霧
秋後拾 秋下
秋拾 霧

さしたるつゆをすがたにて
英房卿
秋の光まつふくるとてや
法印定安
秋ゆくとてなんたのしき
法印定親
日をへたれのつゆのしたし
法印定親
秋夢の宮にかたるかり
民部卿
的まいの月やもとのあひ衣
日をへたれのうつせみ
善了法師

三百十四首

月

秋千 歌
秋後拾 恋四
秋千 歌
秋千 歌
秋後拾 恋四
秋千 歌
秋後拾 秋下
風 雜下
風 冬

我恋のやまとなりをいとふ月
花院内大臣
いつわりの雲ゆくえ
拾遺家
とてもなほ月の海のなりしを
英房卿
今しとみくしのむすめを
入道三品親王 第四
ふるとみくしの衣ぬうて
法印成運
春よりはなてをとりて
康寺四位
あまをとをとをと

形子
京三
風
雜上
形子
尺
形指
春上
形指
雜下
形後古
長
形子
釋
形子
秋上
形指
秋上
形子
釋
形子
尺
形子
雜上

梓ちひくてあすくにはあをを
さうを我萩のあるはのれるから
ほのひ初んの春に日のまをまして
春のさかりとうの長を紙しこ
傳業京事業みとあるる家風分八
世中のとを業よりる家の分八
とをを庭の〜壯(よ)言とれて
家をる〜ある人をれるをのく
交流社にたるむ庭の位をを
とをを思るこるまをちをまて
我れたををのをの業世事家
をめまこ月やあるみを思まて

形後古
長
形指
雜下
形指
春上
形後古
長
形指
秋上
形子
釋
形子
尺
形子
雜上

ををのんをををれをる
ををのををるをの〜
ををのけをよ物をるる
ををの名をの世ををを如
ををのををくををを思る
ををのをををををを思る
ををのをををををを思る
ををあるの秋よ月を欲
ををあるのこ萩をたるを
ををる〜法の紀れ〜た紙
ををるをを人や方をを拾をん
ををみをりを寒し新る

法下実孔
安加成業
貸院刻乳
法四国之人
業を紀之石
保仲編
業院室百
位聖完答
強世事都
記生
位位嚴子
英俊実証
糸乱上人
祝成四

形指
秋上
形指
秋下
形後古
長
形後古
長上
形後古
長上
形後古
雜上
形後古
長上
形後古
長上
形後古
雜上

ををををををををを月をを紙
ををををををををを月をを紙
ををををををををを月をを紙
ををををををををを月をを紙
ををををををををを月をを紙
ををををををををを月をを紙
ををををををををを月をを紙
ををををををををを月をを紙
ををををををををを月をを紙
ををををををををを月をを紙
ををををををををを月をを紙
ををををををををを月をを紙

英俊実証
位位嚴子
位聖完答
保仲編
業院室百
祝成四
中国人名英
改之石
英俊実証
糸乱上人
法下実孔

彩子 長下
彩子 親上
彩子 親上
彩子 親中
彩子 親中
彩指 人
彩撥 長一
彩撥 親秋
風 親中
彩指 長一
彩子 秋下
彩拾 長一
彩繪 長一

嵐ふきて霧の晴ぬるかぜ
はりまの国にて
をとめ
をとめ
をとめ

新千
夏

新後古
恋又

風
恋一

新後古
冬

新後古
夏

新拾遺
雜上

風
雜下

新拾遺
夏

新千
雜中

新拾遺
雜下

新拾遺
恋上

新千
恋一

風
雜上

新千
夏

新拾遺
雜去

風
雜下

新後古
恋四

新拾
哀

新千
恋二

風
夏

新後古
尺

新千
夏

新後古
恋一

新後古
雜上

彰千
名
彰拾
名
彰拾
秋下
彰拾
秋下
彰拾
秋下
彰拾
秋下
風
秋中
風
名
彰拾
名
彰拾
衰
彰拾
秋下
彰千
秋下
彰千
名

橋姫のとなや柳と大原のかるの
はらにたちのぼりあるよ
彰拾
名
彰拾
秋下
彰拾
秋下
彰拾
秋下
彰拾
秋下

百七首

せ

新続古歌
ひろさはの池のつゝみの柳かげ
たれかはしらぬ人のなかれて

新千載中
権僧正賢我
流れもあらぬ名をのこすらん

風雅
前関白
みなうたに河面ゆくし山川を

新千載三
順
波の神にぬさとちらすは人の

新千載一
権僧正経賢
せゝの音聞てとゝまる人

風雅
達智門院
せゝの神のみくしゐねハ

新拾遺
慈威
こゝろ物思ふ人の身のう

新拾遺下
後伏見院
大井河桂のもとの清流

新拾遺一
後伏見院
せゝとゝもみなの底にて

新拾遺一
権僧正重
淀川神の中すゑ人をうれし

新千載一
源具氏
せゝとゝ申とゝ人の世

新千載
後伏見院
みゝ河のそゝ流やすらはま

新千載一
源具氏
せゝのひゝすゝ神はゝ

新千載
後伏見院
今まあいの中のみなゝみ

新千載
後伏見院
せゝや海の高砂の浦

新千載
後伏見院
またゝ人ゝとゝ思ふ君ハ

新千載
後伏見院
せゝ入る水のゝゝ心ゝ

新後拾遺 恋二
新後拾遺 春下
風雅 雜中
新後拾遺 恋五
新拾遺 雜上
新拾遺 雜
新拾遺 羇旅
新拾遺 恋一
新後拾遺 恋三
新後拾遺 秋上
新拾遺 恋四
新千載 恋三

吉野川とたにくらす神さびや
山もの咲るかすみのうちよりそ
わるき面のさやまの雲の遠ゝを
はたゝの里をみるの神よ
吉野川とやまれたるたん
人とはなれ弱ゝ面めの金殿の
秋とゝ春ゝ出るあるさまれ
神ゝ遠ゝ世ゝ
うき中ゝ高ゝ山ゝ
金殿やあるうけ
たゝゝ
遠ゝ後ゝ

せきいれぬ月の光ゝ
せきいれぬ月の影のらに
せきいれぬ月のそらゝ
せきいれぬ月のそらゝ
せきいれぬ月のそらゝ
せきいれぬ月のそらゝ
せきいれぬ月のそらゝ
せきいれぬ月のそらゝ
せきいれぬ月のそらゝ
せきいれぬ月のそらゝ
せきいれぬ月のそらゝ
せきいれぬ月のそらゝ

紀後豊前
泰義雅経
経二位為子
坂上業兼
順徳院御製
武蔵内侍
前摂政有忠
安嘉門院隆
経俊卿母
源義持朝臣
持明院統
持院勝光

新拾遺 雜上
新拾遺 恋二
新後拾遺 恋三
新後拾遺 秋上
風雅 恋三
新千載 羇旅
新千載 羇旅
新後拾遺 雜
新拾遺 恋四
新拾遺 雜秋
新拾遺 別
新拾遺 羇旅

行くすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ

ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ

ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ

北条宗宣
伊勢言
金沢貞顕
二条為忠 東遊
望月信盛 信濃女
桂信蓮 信
俊守国量
冷泉為尹 為冬卿女
冥秋門院典侍
接数家百
順徳院御製
芝蘭氏忠

新千 恋二
我恋にあまる代にあまりぬれ
後鳥羽院
新拾遺 恋二
おいてふてふて神のあはれん
平時親
新後撰 恋一
とまるとてとまる合歓の
源実氏朝臣
風 恋二
ながめつるかな
後伏見院
新後撰 恋一
ながる川の流のうちにて
橘範隆
新千 恋一
いて思ふ代中のたちみな
日光院入道宰相中将
新千 賀
我にて君に代あふぎ
関白左大臣
風 雑
るるなるのおりうるに大井川
後嵯峨院
新千 恋三
なにて抜おとけるあはせるハ
二條院讃岐
新拾遺 別
けんのなるまいしかるの
前参議朝親
新拾遺 恋一
なるにたぬをるる荒ハ
源実朝
新拾遺 離
三とせまてうれしそうれ
藤原為家
新拾遺 恋一
なまてとうれしそうれ
安嘉門院四条

新拾遺 恋又
たて父ゆとうるを和とうるを月を
新拾遺 恋一
我くるるのくるるみんタ紀
新千 恋三
琴とと伝にわたるすハ
新拾遺 恋二
ロ言あるるるる勇ぬるとふを
新千 恋二
たるとふ枝さんをたるにまれ
新拾遺 秋上
秋篠の沼ハ日ろかる恋の
新後撰 秋上
月ハるるるるるるるるの
新拾遺 雑春
ふるるるるるるるるるるるる水をせるとて

きあて恋のあるるるる
前関白左大臣
ありてうるるるるるるる
後宇多天皇
ありてるるるるるるる
嘉陽門院
ありてるるるるるるる
三条信方
ありてるるるるるるる
津守国助
恋の
恋の
恋の

す

風 恋ゝ
彩子 雅宿
彩子 賀
風 夏
風 文
風 夏
風 春下
風 夏
彩子 神
彩子 秋下
彩接 雅中

かく度てはかさしも栄まり
ぬるかな世の紙ゝ子に
みなれぬる舟よさてゝ霧の月
うたく移よ庵さ新とゝ月
吹と宿本と雁の月新けて
山ゆ来てさゝゝ小車れ
雲の風はゝゝまりすす月
またゝの月風ゝ寄ひ也
神代より契ありてや山井を
位ゝと紙星とゝ下萩て
ゝ接ゝて思ゝ接ゝ花の

すてゝ人ゝ重てゝ月
ゝ月ゝ紙ゝ月に
ゝ月ゝ紙ゝ月に
ゝ月ゝ紙ゝ月に
ゝ月ゝ紙ゝ月に
ゝ月ゝ紙ゝ月に
ゝ月ゝ紙ゝ月に
ゝ月ゝ紙ゝ月に
ゝ月ゝ紙ゝ月に

後鳥羽院御歌
後西園寺入道前太政大臣
藤原家隆朝臣
後鳥羽院御歌
後西園寺入道前太政大臣
惟宗光吉朝臣
後鳥羽院御歌
後西園寺入道前太政大臣
藤原家隆

彩須古賀
彩接新上
彩接広
彩須古広文
彩接新中
彩接新下
彩須古祢
彩接狩
彩接新上
彩須古新中
彩須古新中
彩須古賀

月新のすゝぬ遊れ池のよ
とのたゝ之方をとゝ出へるに
尺第ゐ　殆市北ゐ方と奉
れたゝゐ本葉かれの長ゐ
立たゝ入ひやうゝんゐゐく
たゝて立たゝ指め世中に
玲瓏ゐうゝし淑とゐてきて
効とたゝめ八月のとゝてふ
あゝまゝのとゝ出ゝ小里に
たゝのゐ極ゝ山ゐゝ尺
笠くとゝかれたゝん開すて
も強四のたゝめきゐ北川ゐと

もしゝ今ゐゝ為ゝ之駿
もしゝ為ゝ之駿ゐ
もしゝ為ゝ之駿ゐ
もしゝ為ゝ之駿ゐ
もしゝ為ゝ之駿ゐ
もしゝ為ゝ之駿ゐ
もしゝ為ゝ之駿ゐ
もしゝ為ゝ之駿ゐ
もしゝ為ゝ之駿ゐ
もしゝ為ゝ之駿ゐ
もしゝ為ゝ之駿ゐ

薬師寺法親王
律師雅世
侍人ゐ
薬師寺
明経法師
侍宣上人
後法院

彩須古新中
彩須古祢
彩千ゐ
彩須古新中
彩千新尺
彩千新上
風新下
彩千吉下
彩千吉下
風夏
彩千吉下
彩接新秋
彩千新下

ゐ祢とゝくゝに成ぬゝハ
ゐゐゝ出ゐゐ世ゐゐ浪ゐゐ
初ゐゝれゐゐの宮ゐゐ
人ゐゐゝたゝゐゝ尺揮ゐの
契ゐゝゝ紀ゐゐゝゝ
いゝゐゐゝ年北ゐゝゝ
ゐゐ不ゐゝゝゐゐの
ゐゐゐゝれゝゝゐゐ
ゐゐ月ゝ月ゝ月ゝ
ゐゐ月ゝ月ゝ月ゝ
ゐゐ月ゝ月ゝ月ゝ
ゐゐ月ゝ月ゝ月ゝ
ゐゐ月ゝ月ゝ月ゝ
ゐゐ月ゝ月ゝ月ゝ
ゐゐ月ゝ月ゝ月ゝ
ゐゐ月ゝ月ゝ月ゝ
ゐゐ月ゝ月ゝ月ゝ

ゐゐゝ氏ゐゐゝ
ゐゐゝ氏ゐゐゝ
ゐゐゝ氏ゐゐゝ
ゐゐゝ氏ゐゐゝ
ゐゐゝ氏ゐゐゝ
ゐゐゝ氏ゐゐゝ
ゐゐゝ氏ゐゐゝ
ゐゐゝ氏ゐゐゝ
ゐゐゝ氏ゐゐゝ
ゐゐゝ氏ゐゐゝ
ゐゐゝ氏ゐゐゝ

薬師寺法親王
律師雅世
侍人ゐ
薬師寺
侍宣上人
侍宣子
薬師寺
侍律師

彰指神
彰指秘下
彰子新下
彰子新中
風新中
彰子
風
彰子新下
彰子新中
彰子尺
彰指尺
風新下
彰指新下

神ものとに石清水
わくまてて濁の心なほ
いまはつよ中かりの宮ふ
ふりかきよの水まけて
居ひ面てなれ事てれ
夕ひくひすむ事世よ目人の
のるを中ひき浮世を流り
ありへとたのる事をとるる
なのむをよのさりかくをを
ふるる毎の人れををれまに
さめ屋ぬうる世の義公武を
をるるる分ハうを武世よ

もちんをを世風事をるき
伊摩のう武神をるる月新
海てう毎ををにるを光
海すんを雅のらせん
海をんををるるる
をる毎のををを風を硯
をるるををるる勇武若れ
指めるはをるるを
指めれけのるひるを
指めるひとたのしるを
指める勇武指のるれ
指めかるるひてをめる

京都の家
業績を養成
法華堂
法華宗禅
指花山院家の内大臣
順徳院
指師相模
規意法師
厳門院
賢殊上人
春秋義朝
三位資通

風新下
彰子新下
風新下
彰指新上
風
尺三
風新下
彰続長尺
彰指新下
彰指
彰
彰指
彰二
彰続長新中
彰指新表

清水の命をたすけて
をきるをにつかをを新分ハ
いにをしれをしるをるる
指て山より出をるるを
一ふひの運命よう命を武
屋をらめ新分の新武を
うるをるるる毎を月の
法弁をををるる分ハ法り
いるるををるるるる古の
をををひいるるん三稿の山
ゆるをのをを武を月の
山をるを立てをけハ新山

指をを紙をるをしを硯
指ををいるる浮世より名
指をををを武世の
指て心のれるををん
指れれみを武のをを
ををるるを指を武を
指をるるを指を
指をるるを
指をるるを
指をるるを
指をるるを
指をるるを
指をるるを
指をるるを
指をるるを

竹林院入道
前左大臣
宗教法師
実俊遍法
冬定法師
院冷泉
前内大臣
前内大臣
二条法師
指法新宗
指法新宗
指法新宗

彩後拵 羈
風 新中
風 夏
彩後拵 冬
彩江拵 新上
彩後拵 立文
彩拵 新秋
彩拵 新上
新千 新下
新千 立一
風 秋下
新千 離

とをとうとをとをとの狩いみたりて
いなり山けはや月のありあけん
松のいろ林をたづ苔
松のあけぬ雲間うるより
苔の花郭
春深雨霧
松の雨とぬれ雲とぬれ
松の上に雲ぬれ方をとて
松の上に雲ぬれ方をとて
ひとりぬれぬる袖のうへの花
あるかをとをとをとをとの
いたせし我門松の松のうへ
夏よりあるかをり山里小
いくあひの姫こゆるん三日月
ちに出てまれくとのくもをとを
ちのあまの間とかをて潮汲ハ

後鳥羽院御製
定家卿
定家卿
定家卿

彩須古 新中
常にはつく世のうき事や山里に
すましてめさたりぬん　陸阿法師

彩指 玄下
霧て色絶て見つ秋の山
すまとをもあ新分すり也　為家 光俊卿

彩須古 新中
世とはふるてて世まあの
すまとり絶て居やしもそん　従信 為義 為

彩撥 藤
我あ八結ひとあいかとあ
見たらて二宿や日本　祝部成長

彩子 新下
のう絶めて限と山行て
すまとうまてて三ひとうの　撰人 六条

彩子 玄二
みとう世ハ色ハはりそあ八
すまとんとて色こやとう　参議雅経

彩指 新中
世中と秋の山れり　すまとうとて　右衛門督家

彩須古 新中
いたとん事のいりれ色はとて
すまとうまて秋はりめう　撰人 六条

彩須古 新下
世ふとうとうとう一角四方
すまとあ秋るのうとし　後隆 祝部

風 新中
金まりりの風う世中に金
すまとうとうかれうは　為家為母安

彩須古 秋上
秋ふき世のあ純の霧ふう
事集よあう世秋考る　源持信

風 旅
四ふまて三ふ行ふ三ふう
事すうう和ふう秋八　信 信 頼政

彩子 秋上
武蔵野や草ふ秋ふとと家の
とのはう秋ふとれて秋く源　為家 為氏卿

彩撥 冬
いとふ人りのうひ秋を
ふのれを三ふ事八義朱の　前大僧正慈円

彩撥 玄二
家の世四とはふ人玄日山
いまはふとふあ中川れ　撰人 六条

彩須古 玄三
行ふやむ玄のうりの下もと
ふれうとのうふ秋けてけの　右大臣 実朝

彩撥 玄又
四ふとふ秋四ふうあふうや
はふふふとと海く立つ玄　成茂宿禰 赤尾左衛門

風 冬
行ふまりたしとうまふ事の
あの世とてもあ秋ふとと　在澤東門

風 新下
あふ事ふ雲八りつて　衣笠前内大

彩須古 罷の
ふとと秋あれふけよ老の波　後徒家隆

風 天
あそうふ月をみふる　摩多月隆師 二条殿 為兼

彩撥 玄上
まんとをあ山川のあう　前大僧正慈円

彩撥 新上
まふ三ふ秋ふとふ月　前大僧正慈円

彩撥 新上
まふの風の秋ふ秋ふ　撰人 六条

彩撥 新上
玄集の秋と新ふひて　八条院四条

彩撥 新上
まにあ山川をいてたの人　賀茂雅久

彩撥 新上
まふふれふふあを波ふふ　後西園寺 赤尾左衛門

彩撥 新上
まあふふふふとふ　右大臣 実朝

彩撥 新上
まふふふ秋ふ秋の日新ふ　成茂宿禰 赤尾左衛門

彩撥 新上
あの世とてもあ秋ふとと　在澤東門

彩撥 新上
まふ秋ふ雲八りつて　衣笠前内大

彩撥 新上
まふふふふ和ふ波波ふ秋　後徒家隆

新千 雜中
四方とも山ぬ地ゝまつ山に
雨ぬ羽光
法皇家任

風 題三
かゝふそいてたのもんてゝるま
はるをとゝ
後鳥羽院

新拾 賀
代ゝを経てみゝの行の程はな
末ゝを世はゝをなかふへゝ

風 題四
うゝ
とゝに
ゝ
後院

風 題二
ゝゝまつ
ゝ
ゝ
ゝ

百首十首

新和歌集

し

新撰古春下

新拾春上

新千雨中

新拾霧

新撰古尺

新拾尺

新千雨中

新撰古神

新千尺

風 五二
新後拾 雜下
風 春中
風 冬
風 春中
風 五三
新後拾 五二
新拾 五三
新後拾 雜
新千 八
新拾 五一
新後拾 春上

ゆくすゑまたしらぬ梅の花 ひとりぞ春の月にぞ出る
世の中はそむきてなほとふしをかなしきものと思ひしるかな
なほたのむ月はいとはぬ山の端の ひとりぞ春の月にぞ出る
春の夜の月はいとはぬ山の端の ひとりぞ春の月にぞ出る
秋の月ぞ出でぬる嵐の疾風 ひとりぞ春の月にぞ出る
ながめて花のかをるもつれなくて ひとりぞ春の月にぞ出る
つれなくて月ぞ出でぬる山の端 ひとりぞ春の月にぞ出る
ながめて月ぞ出でぬる山の端 ひとりぞ春の月にぞ出る
なれそめしかたらひ月の山の端 ひとりぞ春の月にぞ出る
ながめて月ぞ出でぬる山の端 ひとりぞ春の月にぞ出る
なれそめしかたらひ月の山の端 ひとりぞ春の月にぞ出る
ながめて月ぞ出でぬる山の端 ひとりぞ春の月にぞ出る
なれそめしかたらひ月の山の端 ひとりぞ春の月にぞ出る

右京大夫隆祐卿
西行法師
白河院女房
後成
藏人所一条
鹿屋王母
進子内親王
後鳥羽院
進子内親王
雅経卿
藤原定家
伊勢
民部卿文治

風 雜下
新拾 雜
風 五三
風 五二
風 雜
風 雜
新千 夏
新拾 冬
新拾 夏
新拾 五一
新後拾 雜中
新拾 雜中

つれなくて月ぞ出でぬる山の端 ひとりぞ春の月にぞ出る
なれそめしかたらひ月の山の端 ひとりぞ春の月にぞ出る
ながめて月ぞ出でぬる山の端 ひとりぞ春の月にぞ出る
ながめて月ぞ出でぬる山の端 ひとりぞ春の月にぞ出る
なれそめしかたらひ月の山の端 ひとりぞ春の月にぞ出る
ながめて月ぞ出でぬる山の端 ひとりぞ春の月にぞ出る
なれそめしかたらひ月の山の端 ひとりぞ春の月にぞ出る
ながめて月ぞ出でぬる山の端 ひとりぞ春の月にぞ出る
なれそめしかたらひ月の山の端 ひとりぞ春の月にぞ出る
ながめて月ぞ出でぬる山の端 ひとりぞ春の月にぞ出る
なれそめしかたらひ月の山の端 ひとりぞ春の月にぞ出る
ながめて月ぞ出でぬる山の端 ひとりぞ春の月にぞ出る

三条入道前太政大臣
為家卿
徽安門院
後二条
後宇多院御子
亀二後伏見
法眼行海
原光行
西行法師
平行氏
左兵衛督
日蓮上人

新拾 五三
新拾 恋一
新後拾 五一
風神
新拾 雜中
新後拾 五五
新千 五二
新後拾 五三
新後拾 五二
風 五六
新千神
新千 雜中

新拾神
新後拾 恋一
新後拾 五五
風 五一
新千 五一
新後拾 五一
風 雜上
新拾 五三
新拾 冬
新拾 哀
新拾 五三
新後拾 五三

風 雅上
新後古 雅下
新千 巻五
風 巻二
新千 雅上
新拾 雅春
新後古 巻二
新後古 尺
風 巻五
新拾 巻五
風 巻二
新後古 巻三

もつなをとりて入しかくれいほるくれを
家おりなんてをくなるのかもとのまりそ
いくかつ〻もの契りの長月後を明の月代
あの光のいなをうとかこのもとくれの月夜を
対しつゝ谷ちかの学りの女人
もちなく我てうきのかくもかなるすの
いこにさんうにみをくてこれをほくさてろの
なりたしの夢代ゆかをとろ君やはてまんの
我なくもれくそといろれくつとなてもしの
非とあれうさ代へとよいとわをとにいそた
なろ面よりるもしりを陽もうまるひ
もをしやるこの面り非うみさくなをもの

ひとりとろ人れ　皇后宮定　後成女
ひとりさかの　二条は新を　元参
ひとりの尺をを　雅中四言　具行
ひとりの尺よや　前大宰大弐　仮道
ひとりをとくや　後宮名院　御製
ひとりをとりを　聖方は　新を
ひとりの尺つた　英四条宮
ひとりの尺をを　高倉上人
ひとりの尺くん　ふみ人次
ひとりの尺うみの　大蔵卿有家
ひとりの尺行て　永福院殿
ひとりの尺よろん　後二条重民

新千 巻一
新後古 巻二
新拾 巻四
新後古 巻五
新千 春
風 春中
風 春中
新千 巻四
風 巻三
新拾 春
新拾 秋上
新後古 雅上

もれくれの月もあるりとるわふきかの中なる尺をを
ろをるをるくろ戸にはんの日の家中はをなかの
文〻又のれ一つりりわれるてなをもの
くるるて東をとろにおき者て桜のりきく
いてをしいれ月代方にてをしてを乃心河の
桜ろ主をのもてを花ふしり花のるとろ
はをををれろかりりをくみて主目ををき
ゆき書なのををををををを
ろのろのををのこををををををを
ををををををををををををををを
いく秋しるを契りや織女乃まををりをいる
はをりを書ををををを小篠りを冬の日数の

ひとりとをを　前中言定家
ひとりとをを　後鳥羽院
ひとりとをを　西行法師
ひとりををを　後鳥羽院　御製
ひとりかをを　太上天皇
ひとりををを　僧正遍昭
ひとりををを　正六位下言　為兼
ひとりを秋の　前内大臣
ひとりを秋の　従二位家
ひとりを秋の　従二位重民　兼
ひとりを二を　亀山院御製

風天

新後拾遺 尺

新千 五一

新拾 五四

新後拾遺 雜上

新千 五四

新拾 尺

新拾 雜中

風天

新千 尺

風 賀

新後拾遺 雜下

ひとりかねこ　前大僧正 慈円

ひとりかねこ　清輝朝臣

ひとりはなれき　左京大夫 藤原成家

ひとりなかめて　後一位行家

ひとりなれて　後京極摂政 前太政大臣

ひとりとまれる　前参議 藤原定家

ひとりもとまれる　左大将 実持院殿

ひとりかねこ　権中納言 藤原為氏

ひとりかねこ　後伏見院 御製

ひとりなれて　院御製

ひとりしらせ　後京極摂政 前太政大臣

新拾 春上

新拾 尺

新後拾遺 夏

新千 五二

新後拾遺 雜上

風 秋上

新後拾遺 五五

新千 五三

新拾 雜上

新千 五五

新千 五五

新拾 五四

ひとりとうめて　前大僧正 慈円

ひとりとうめて　後鳥羽院 御製

ひとりもせに　参議 藤原雅経

ひとりもせに　後鳥羽院 御製

ひとりもせに　後鳥羽院 前太政大臣

ひとりもせに　鷹司院 御

ひとりもせに　土御門院 四条

ひとりもせに　法皇 後鳥羽

ひとりもせに　後嵯峨院

ひとりもせに　典侍 藤原親子

ひとりもせに　左近中将 藤原義詮

ひとりの春の　後人の和

ひとりの春の　今出川院 近子

新後古 五五
新後古 天
宗後古 五三
新後古 五三
新千 五五
新後古 哀
風 五三
新後古 五四
風 五三
新後古 五四
風 五二
新後古 秋中

き孔子のいはく原憲もしるる
今こしなほ知るあるもあり
ずはいとをまこと見給へるに何ぞ所無
かこゆんせ見しいかなる法をもてこそ
ひとにおもはれしかなる実をもてやろ
かれいかりつるに人をふ感まさに夢を感
せしたちのいつこともしらせかなしみ
いたりつるに人をふ感まさにとなる
いたりをまことにおもひしるに
はりのいたりをまことにおもひ
ありかるるにもあらにしかや
ふ人をもうしはとうはかりつるかの
ものとなにいとしれるつゆ古へ代をかしこ

ひの紫りの　源持之卿
ひのそこへ　権中納言 非像
ひの別沼　治仁王
ひのわれち　源義時卿
ひのかしち　後白河院 下野
ひのるに　上部兼直
ひのかるーき　太上天皇
ひのもろん　紀之盛
ひのものまね　後二条院 浄土寺
ひのものまね　庶子佐
ひのもしたち　進子内親王
ひのもしたさ　権中納言 道俊

新千 五四
新後拾 五五
風 五三
風 五四
新後拾 五三
風 五三
春上
新後古 五二
風 五三
新千 五二
新後拾 五二
新後古 哀

たえにしうつりかれもろこしの
いとはるかなりしかもわまるる
けはとをるに感ーさを方長なるを
一ときにしたもしるうるたわわるにこの
我乃ちやかはるるこの夜くれ神のりのこと
いとをとをしたもとふるやこゆるこあるに
春をもてとういを作ーー梅のくれかるーこや
ダ者をかもしみるくをとるもしるやは逆しき
かもをすてはるを春の人よ変たるの
作俗くとーまをうをねの変に乃也
はくをとへて逆ーかたい数をふ

ひのほーさい　二条は釈之 覚助
ひのつーたい　前大納言 乃世
ひのるーしり　山内入道 冬文大臣女
ひのるけち　東福門院 在馬脇
ひのるみを　京賢門院
ひのうーしろ　後安門院 一条
ひのるん　豊之
ひのもるん　平仲氏
ひのもしけ　前右兵衛 乃成
ひのもし新　前大納言 公兼
ひのもしかけ　はや嘉等
ひのもを新　前僧正 寛伴

風 五四
新後拾 五二
新続古 五二
新拾 五二
新続古 五五
新千 春下
新千 五三
新続古 五四
風 五一
新続古 春下
新千 雜下
風 五四

けさ吹て おなじうわいえたかとをもしら
そまにいてものまを 仏をゆいたにかもか
ものまをさを ひとつ寺て 仏のあるを世をしらしき
感ものん 仏乃世をしらしめ人いまてつる 秋き
一方につもれきをわもはまきうれ ひとつ
つまの人乃まをしてをまを しら乃世の花を成やか
をの乃月のをつみもまををしたはをたをき
うき身のをこをしらをるあつををら方をた
方ひをつをるみををれつをれをの人をもかを
ひをををををかをはをををををもあるををををを
まを寺境ををを新をををををををつををををを
をををを一人ををををを高をを波ををををを

ひとのをををを 樋口大内左衛門尉
ひとのをの葉 源和氏
ひとのをのを 藤原有忠
ひとのををを 藤原為方氏
ひとのををを 藤原為方卿
ひとのつを 後宮多院 神祇官
ひとのつを 為雲寺入道 藤原為氏
ひとのつを 後勧修寺 藤原為氏
ひとのををを 進子内親王
ひとのををを 中書王 廣平親王
ひとのををを 源光行
ひとのををを 東福門院

新後拾 五四
風 五一
新後拾 五四
新後拾 夏
新後拾 別
風 春下
新千 雜下
新後拾 雜下
新千 雜下
新後拾 雜上
新後拾 雜春
新千 秋上

かををわををををを一年月ををををををををを
をををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
何をををををををををををををををををを
我身をの川をを心ををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを

ひとの恋しさ 樹本使歌羽
ひとのつをれの 微妙門院
ひとのをを波 津寺内助
ひとのきをを 藤原長能
ひとのををん 花山院御製
ひとのををを 藤原元真
ひとのををん 藤原基任
ひとのみをん 源氏重
ひとのををを 行中内大臣
ひとのををん 源俊成卿
ひとのををを 源俊成
ひとのををん 天慶三位

新後古 恋四
新後古 恋三
新後拾 恋一
新千 秋上
新後拾 雑春
新後古 秋上
新後古 春
新千 恋三
新後拾 春下
風 恋四
新千 雑上
新後拾 秋上

恋くて逢よく春をしらし別れしぬ
涼くもたなびそ雲ゆ雲ゆ雲ゆ
ゆくもたなびそ雲ゆ雲ゆ雲ゆ
月を見くつるゆつり物のよなんとおもふ
心なの形をしてあれをつくもつるまてふ
ワさしいつかもちれ小野のをうをうをうれぬ
第の音ひるる花をまてよれもしいむ形くか
多の先つ花ねを物をかこるいまこ活ちをも
一枝もるてうていあるつるよくれ尺ねをあせ
物かもとりろの尺りををてあに尺るをを
心ちこるとあろ雲ともれ霧のあるてふ川色代
夜ひのて草葉の露をあ物かもも神せ

ひやうしきん 安原伊長 羽長
ひやうしきん 後大納言 資量
ひやうかこきん 左大臣 大臣
ひやうれうん 資家卿 羽長
ひやうきうん 入江殿房
ひやうれうん 前大納言 資信
ひやううみん 宗惠法師
ひやうきうん 横人次
ひやうたきうん 前大納言 為世
ひやうきうん 前大納言 為兼
ひやうみうん 仮上是則
ひやうみうん 花院 御製

新後古 恋一
風 雑下
新千 恋一
新千 恋二
新後拾 雑上
新後拾 秋上
新千 雑中
新拾 雑中
風 恋四
新千 雑中
新千 雑下
新後拾 雑下

つりて物きたるとを源川神りもりして
物夕れてろのうちろのうきれにくもりる方せ
ゆくみさてう月にる源のこ多人ね見いを
う尺方世にうんかまちい恋ふきまんぬい
春中代うしをいるれしいれる宮ち物る
花ちこさ雨代こと物せいてをれを
第年春二ろを作くも恋ちうるぬ
見作ろ器れ居ちに代こさねるもしろこ
う尺中ちうみろ数に代れ代は情せおを
いちんるなふくれ世ちるろ世にるしる尺
今いふ子れ一こ毋ろ代ちうれぬくろよるる
十三年ろまと代をるとくる尺名ちうる代を

ひやうしきん 後京極房 家定
ひやうきうん 前中納言 為相卿
ひやうたきうん 源貞氏
ひやうみうん 受信法師 親王
ひやうれうん 民部卿為家 卿
ひやうきうん 中院前内大臣 通重
ひやうきうん 正三位有範
ひやうきうん 前大納言 為氏
ひやうきうん 法下仲頭
ひやうきうん 花園院 御製
ひやうきうん 光厳院 御製

新千 巡四
風 夏
雲間の春雨
ひとりある身い
後人 法

新千 文
きくやと四人行くい郭公いまくるとの
ひとまもれ
藤原定家

新拾 夏
さのやへ四つ重ねかくまれ孫子光の宮
ひとまもれ
後鳥羽院御製

新拾 夏
行くうれる人行くくれい時雨
ひとまもれ
関白前太政

新後拾 夏
白樹ありそかかもくいすとを郭公
ひとまもれ
藤原公任

新続古 文
郭公ほしとくくはなれるいのくを聞
ひとまもれ
藤原頼元朝臣

新続古 夏
もるの春くいかくまれたるにかもくいれ
ひとまもれ
法下宮

新続古 秋上
今いくてるとはいとの乃ひくきすワとれかもみか
ひとまもれ
竹橋頭脳

風 秋上
かもしもるをれとうへいまこうもゆ
ひとまもれ
前中納言定家

新千 巡四
きは坂いるとれ実をとの乃ゆめしと文ふの
ひとまもれ
大納言頭実

新続古 巡二
いたをとの乃くれるれ乃くをよくくも
ひとまもれ
従大僧都良春

風 秋上
たくもしはをれるはかくまきすきとかもか
ひとまもれ
三善為連

風 秋下
ゑくくの乃れよのいくん伊勢れのはの乃ものくれ
ひとまもれ
土御門院御歌

新拾 巡一
年代をくくるとのこはるの源とくくるね
ひとまもれ
源春文

新続古 巡一
行くれきて心しかちにのくをの世のきをを
ひとまもれ
藤原定家

風 巡五
なかもかの命をはいはもしれく我やかしを
ひとまもれ
前中納言定資

新千 巡四
思ひ孫の源をくらをを毒とくき秋をく毒い
ひとまもれ
藤原隆氏朝臣

風 秋中
かくはるやかとくよゆるはくこをにまの久久
ひとまもれ
後二位為子

新拾 春下
数はるる花乃ゑ了雪語るれ一はるるをやを
ひとまもれ
物部宗使 資健

新続古 巡一
かる出くくをくるれなをいを雪見くくにす
ひとまもれ
竹林院前内大臣

新後拾 冬
ゆきはくくうをとれるくれ旅くるをもくる宿よ
ひとまもれ
権中納言資教

新後拾 巡二
はの世ををゑもの見代い巡のみをくき
ひとまもれ
蓮生法師

新千 雜中
うに方一も何乃くくんをくち角の語よて見く
ひとまもれ
藤原俊正 道真

新千
夏

夏ぞまたいとゝきくこゑをなかこれみちゆくあまのかりこそ

ひとをまつよしの
石近中納言義詮

風
秋上

あしかくしゆくのいなむしろ毎夕傳ひて

ひとをこそうへ
京は新道慈道

新後拾
恋一

きてみるかをつたのもとくを火下もえ煙やそれなる

ひとをこそうへ
英俊卿　乃家

風
恋一

夢ぞまたこれをいはしとあはれなるかなをもいかにとは

ひとをこそうへ
英俊卿　俊定

新千
雜

ちゝの形見さうしこのとりてきかるとゝろ孔雀とは

ひとをこそうへ
大江廣元房

新千
恋四

ちるをまつ春のうらみは花ばかりあくるしとつ

ひとをこそうへ
修理亮定頼

風
恋一

ゆかしのもとをたのもしやあさ早月ふまはけて

ひとをこそうへ
英俊卿　為氏

新千
恋三

さのこまゝ孫こ孔雀に月もみて秋夜深みて

ひとをこそうへ
左京大夫　為重卿

新拾
恋一

しるこゝろ方にをもはれあるとあるかをたに

ひとをこそうへ
兼好法師

新後拾
恋一

月をまたみるといふてしるこゝろをいふくを

ひとをこそうへ
法師純賢

新後拾
雜

君おもをいはとゝろこゝろいれあるけをしあるをつるゝ

ひとをこそうへ
左京大夫　俊能

新拾
恋五

なをいたいたしれはあれはかをはあるせちなるは世ちなる

ひとをつかせ
英俊卿　資教

新千
恋五

いとゝ恋しかるを月をまくうたゆくゆくはとゝ

ひとをわる世より
英俊卿　資教

新千
恋二

柳ゝ人へのるゝ月ゝ月ゝゆゝ月ゝ

ひとをつかん
後鳥羽院

新千
秋上

ゝ夜ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ

ひとをわゝと
中納言家持

風
哀

あしかもの人伝代ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ

ひとをみゝん
如願法師

新拾
恋三

月ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ひとをもゝん
後二條院北京

新拾
雜

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ひとをもゝて
花山院入道前太政大臣

新後拾
恋三

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ひとをゝゝん
成仲

新拾
雜上

細代爾と契ゝ人のまゝふねをいはこふまて

ひとをゝゝん
道因法師

新後撰拾
雜

ちる花代ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ひとをゝゝん
後鳥羽院

新千
雜中

基爾ゝ新ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ひとをもゝ
皇太后宮大夫後成

新後拾
夏

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ひとゝゝ
後鳥羽院御製

夏乃ゝの月乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ひとゝをゝゝ
二条院讃岐

新千 雜中
いつの海の波しかそなれしはてはそこ底もなき
藤原やすつね朝臣
ひいわとうみの 前中納言定家卿
新千 慶
久しくは待つ日吾れ神まつる月はかすうも
入道二品親王 寄月
風 神
ひいわそふん
作る名の月はうつしに宮こ方ありや
新後拾 雜長
ひいわそふん 民部卿為明
新續古 賀
もりてうしにわたる人ぞ思ひ出でつる神代も
新千 夏
七よ世の月日みくくらに葉の露のしらたま
ひいわそふん 入道前太政大臣
新千 秋上
うゑ初りそうゑくつかはれしと思へ月の
ひいわそふん 京極前中納言 後肥後
新千 神
つまの元れあき一月日もうゑねい神代かうれ
ひいわそふん 後鳥羽院御製
新續古 雜上
つれなを思ひしらしもうゑ月の
ひいわかけう 源光行
新千 冬
久り蒼市もそうりたそぬれ伝雪ふる月の
ひいわかるとふ 前参議方綱
新千 神
紫雲をうちそえて神ちと月をけりてふ
ひいわかるふん 藤原田氏之
新千 雜上
君の代りつのやこれそれゆやまとの雪の
ひいわかるふん 推家 光吉朝臣

新後拾 春下
うゑ山本の下陰の岩ほしーゆきとけ
ひいわかるふん 崇徳院御製
新千 雜上
思ひやれうゑの月まてるれ孔てもかれてうゑ
ひいわとふ 法中僧関
新千 雜中
今うゑしかあれ一もれ孔くしはるれ
ひいわとふ 前大納言為定
新拾 雜下 親
ひうゑきうれ心長松本の夜ようゑ
ひいねうゑい 前大納言為定
新後拾 恋二
ふかくようを四方をうゑみこかる恋くまら
ひいやわるふん 前中納言匡房
新後拾 夏
おりて孔れ孔わにるしく雨心のうゑふしや
ひいうゑうまわ 贈太政大臣
風 雜
雨よりうゑに神代かさひて猿も
ひいうゑぬて 後光厳院御製
新千 春上
ひん多くく野原孔ひれ孔ふれまん雪ふれ代まくは
ひいうゑ孔ぐて 皇太后宮大夫俊成
新續古 歌
ひうゑ孔れて雨名ゆ一ほ一をれ孔ふ夜ふれて
ひいうゑ孔ぐて 返山院御口伝
新拾 旅
見引のひ人ふうもとのみこやいをしうもとをうり
ひいうゑかく初ん 後光厳院御製
新後拾 遊
雨ふたをもいとうりひうゑ心ふうを
ひいうゑかうて 前大納言長雅
風 秋下
風ひうゑかまくひうゑ孔りはうゑくうてぬりのち

新後拾 夏

五月雨のいつをしるべの水なれや
ひぐらしのこゑ
前大納言為定

新千 雜上

今更の年の暮とはしらねども
ひぐらしのこゑ
洛中國卯

風 雜下

ながめやる名ぞ山の野もの
ひぐらしのこゑ
後二條為信

新拾 雜

つくづくとしらぬ老をとはるべき
ひぐらしのこゑ
東京基世

新千 春下

ちの浦やしをるる波に吹かぜの
ひぐらしのこゑ
仏殿院製

新千 慶

ちくさの地みちやる長の世をかけて
ひぐらしのこゑ
為四条為重

新千 尺

あるかぎりまねくちとてつくしなる人のつ
ひぐらしのこゑ
二条は家と為之

新拾 神

ちとしるまでいはせるときいてのいとは
ひぐらしのこゑ
阿保観覚

風 神

名草やしとるや榊の花さをせとかもしけき
ひぐらしの声
紀後文弟

新千 慶

ちの世とてさかのひろまりぬるなるべ
ひぐらしのこゑ
源為氏朝臣

新千載古 尺

世とてちとて系ぞ千とりにつ
ひぐらしのこゑ
後宗後拾遺 前左政大臣

風 夏

夏のさかりのみとのの木立をとはるる
ひぐらしのこゑ
前大納言為家

風 立

風もなほ松の木陰のすずしさは
今上皇后宮

新後拾 夏

松の木陰に風を添へまし
前右大臣

風 秋上

新しき木の下風の夕日かげ
秋をしるべの
後中納言俊實

風 秋上

さらでだに秋とはしるべ
秋みぬ
後二條為子

新千載古 夏

ちぬ秋とはしるべ
夏の
天皇御製

新後拾 雜上

ちくさの花の夕ぐれ
ちくさの
二条は秋と寺覺

新後拾 雜春

ちの秋の雲のいとなみ
いくとせ
源俊氏

新後拾 雜上

松山の谷の埋木
いくとせ
黄門為氏

新千 春

まれにかよふ人の
いくとせ
法眼源兼

新後拾 雜下

いまだにくちぬ
いまだに
沙弥為氏

新千載古 一

ちとせの月日をかさねて
いまだに
蓮生法師

新後拾 三

まほろばの春の
いまだに
法印定円

新千
冬下

とをとれいうたくをわけ神奇乃野うしてれ乃　ひまれをわける　相模

風
友

へ春乃きのり波りとをを月命よ夜乃とてぬ　ひまやれうん　兵部卿成資

新拾
夏

時やて波五月雨り乃をを川きの八潮よる　ひまやれうん　権律師具行

新拾
恋三

仍乃ちりる波ををのはうく人も乃とあ乃　ひまや行ん　法印浄弁

新拾
恋一

きりはや乃ふ乃ぬ波てはけてをたなの　ひまもしん　唯円法師

新後古
恋二

れをとて以つりかれをれあんとをとつなく　ひまもつま　後鳥羽院御製

風
恋一

人をとれへのをれなしをへはるをなをん乃　ひろすもに　冷泉院

新拾
尺

夢をうとゝ中ゝ乃光をとをふをわ波乃ね春すて　ひたるをけ　慈円上人

新後古
賀

我君をゝ乃とを晨はをとをえなをを野ゆまて　ひさしかへき　大炊御門有房

新千
恋三

をとををてをれをゝををにをあゝ乃をとをを波　ひさしまわれ　源川右大臣

新拾
恋四

今乃をとゝををい恋をとなく心乃ゝ乃ね若ゝて　ひたりまあゝ　人丸

新千
雜

ふゝいゝくをくてゝをれ乃をを乃とかゝけををををかくを　ひきををゝへ　前参議為家卿

新拾
神祇

年をあゝ乃ゝ神心乃神をゝゝゝて金人ゝ乃ゝ　ひまかををん　後三条右大臣

新拾
雜春

ををを川をを乃をををゝをゝゝゝ神れをゝを　ひさやをへま　源義時朝臣

新後古
羇

せやをゝしゝゝゝれゝゝをとし東乃ゝ乃ゝのゝをを　ひさのを　源仲綱

風
夏

なく野乃年やを花り吹ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ深きを人ゝ　ひを春ね今わ　後九条院御宇

二百九十首

新千 雜上
年ふるまつ浦なれて山ちかしかまも老木や
りてゝ散ぬ　任少弁院宰相典侍

新千 冬
いはのかけ千年をへし岩ぬまのたもとまつ
ゝる比　前中納言有忠

新千 雜下
さゝなみやいはのすゑ〳〵ふりぬれとまつ
ゝ成ぬる　律師圓助

風 雜下
花ちる春のうゝをはらふ雲にしらぬるけさ
ゝとゝれしき　院帥宇

新拾 戊
落ぬとて嘉乃命りもの冬ゝ乃ちゝ春乃
ゝとのちるを　四位上人

風 秋上
秋くれて萩もまゝ枝りはらぬ人ゝ
ゝとのいろい　前左兵衛督惟方

新拾 丘四
こゝ〳〵ゝ野中ゝ志水レこゝ
ゝとのいろい　藤原乃家

新後拾 秋上
さゝくゝゝ雪中乃ゝ
ゝとのいろい　前大納言定房

風 丘四
ゝゝくれ人ゝ
ゝとの方ゝて　冷泉

新後拾 丘四
逢ゝ乃ゝ春ゝ夢ゝ
ゝとの方ゝて　源持之朝臣

新拾 雜秋
れゝ中ゝ
ゝとのゝみを　後伊宣子

風 雜上
今しゝ
ゝ月乃ゝ　雅中納言

新千 秋上
昔乃ゝ雲井ゝ
ゝ月の月　花園院御製

新拾 丘一
人ゝ
ゝ月ゝ　後人ゝ和

新拾 夏
ゝ
ゝに　平氏村

新後拾 雜上
郭ゝ
ゝに　前中納言宗宣

新千 丘五
ゝ
ゝて　光厳院御製

新後拾 冬
ゝ
ゝて月　光厳院御製

新後拾 丘五
ゝ
ゝて　前大納言

風 友
ゝ
ゝて　前中納言定資

風 雜上
秋ゝ
ゝて　後三條太政大臣

新後拾 冬
ゝ
ゝて　後中納言親隆

新後拾 雜上
ゝ
ゝて　善前僧正

風
夏

新後拾
遺文

新後古
夏

風
秋下

風
冬

風
冬

新拾
秋下

新拾
遺一

新拾
雜中

新後古
春上

新後古
夏

新拾
雜下 物

あまたあつまりて
ものしてかくのごとくなりぬ
ものしてかくのごとくなりぬ
ものしてかくのごとくなりぬ
ものしてかくのごとくなりぬ
ものしてかくのごとくなりぬ
ものしてかくのごとくなりぬ
ものしてかくのごとくなりぬ
ものしてかくのごとくなりぬ
ものしてかくのごとくなりぬ
ものしてかくのごとくなりぬ
ものしてかくのごとくなりぬ
ものしてかくのごとくなりぬ
ものしてかくのごとくなりぬ
ものしてかくのごとくなりぬ
ものしてかくのごとくなりぬ

白河天皇 天長後成
菅原良神 作
後鳥羽院 実日本政大臣
永福門院
後宇多院 実日本政大臣
前大僧正 源忠
大納言有家
権大納言 義経
藤大納言 良冬
藤大納言 重資
中務卿 宮 尊秀
左近中将 具氏

新後拾
恋

新後古
文

風
雜中

新後古
秋下

新後古
秋下

新千
夏

新千
雜下

風
文

新千
春下

新後古
雜中

新拾
旅

一ときに代をかへしかせいのあるかぎりの
五月雨のまやのあやめもしらぬ日の
ひとりの人のかなしさにかの里のひとは
時しあれば人はかはりぬ老たる
ものの思ひ葉
ひとつの家も世のなかの
大井川まき夏ぶねのさおさしかや
ふるかやといふさとの五月雨の
ものやかなしきかの田井のうとの
ふるかやのかりの
人もいとこゆるこまのつねをとはの

後西園寺入道 前太政大臣
法隆院の製
伏見院寺
進子内親王
二条院讃岐 通明
雅永朝臣
藤人
藤人
藤人
藤四位 光氏
後人
藤人
藤人
藤

新拾 雜下詠
風ふけさ山田のいなばそよぐなり秋とも見えぬ夕べの空
後西園寺入道前右大臣

新拾 冬
くもりなくつねの山ちの月の影ぞ冬のはつ日の出
はつ慶運

風
雲さへぬきもあへぬ山のいはに吹ぬ時なしこがらしの
為子内親王

新續古 恋一
あしの葉のつまくれなゐのうたかたの
よしつね

新拾 夏
なびくせりのもとの露さへ秋の
民部卿為明

新拾 秋上
相模ながら涼しき心ゆくに
後桜町院

新拾 恋一
行くゑ心しゆくにまかせぬ谷水のいつかは
後二位家隆

新千 恋一
きしやまにみえつと思ひ我袖の涙と世にはこ
藤原為氏卿

新續古 恋一
ひしらんこの秋うてせゆくくるまでくるはてと
侍従為敦

新續古 秋上
そこにつたなかりしいくたのかりにこの
中院通方

風 春下
吹ぬ物なりあえてうしなんいつせいはいこと
後頼朝卿

風 夏
なくまさりはのあかされと秋にはなりぬ
後鳥羽院

風 旅 恋一
うらんなしかの見しやはしりくけさもいかにたに
道全法師

風 恋二
見つもとまつをしのおもひにいつりおもかる
大江為言

風 恋三
明ねてはかくゆるみちをたのみ
後二位頼政

風 雜下
つれをうさにしかるかれ涙はをうわつる
今出川入道前右大臣

風 雜下
いつくりれをいうはをいとるくるやつれ
高階宗成朝臣

風 尺
二もしをしんかたなにをうしにをたちかをね
藤原隆信朝臣

新千 秋下
兼とくきまくゆはいたくあれとなるこまる
叡尋法師

新拾 秋上
きしらもれりなるかれはせいつさ
西行法師

新拾 雜下詠
白雲のあかるつものてるこいかくにるは
藤原仲文

新續古 恋二
てりてつ一京れしくいはれのの月はくをは
藤原雅経朝臣

新續古 秋上
ものをかくしつ月の多をこ月はてあをはわ
白太后宮大夫 後成

新後拾
冬

秋の夕のうつり変るを見て月に行くれかたきを
ものゝそゝろけり

新後拾
冬

秋のくりもちて雪のうけきて千世にかたれね
ものゝそゝろけり

新後拾
雜上

如月のなかばにもなりぬるしき祝ねゝ明ぬ
ものゝそゝろけり

新後拾
雜

人の家人牧てとゝ祝にしたしたしいやきとわかめ
ものゝそゝろけり

新後拾
雜秋

むれ井の水ゝうりの人なんや月にあらの
ものゝ心ぢんけり

新後拾
恋一

物かなしみ給ふこゝろや海川をへにはるく
ものゝ心ぢんけり

新後拾
雜秋

七夕のたなばたまつる海ちをけ世ちゆつ乃
ものゝやいと

新拾
春

水のかゝりうかんむれ船のるく清のとゝそれ
ものゝやいと

新千
恋五
風
尺

ひかんのくりてにさゝうとゝ今とゝもかくるに
ものゝやいと

新後拾
恋四

のるとゝもてゝのしとなれ恋の月ゝ
ものゝふうさけ

新千
雜上

久みゝてゝのうゝ人のしくゝるわゝれ
ものゝまゝにき

おれ〻ゝ桜ゝ咲ゝ〻ゝるゝ郭ゝ
ものゝとゝてゝや

新拾
雜下雜

ゝゝゝ

新後古 秋下
山田りる人のいるさにてこいてくはうやりなく
ものとうら見人 後鳥羽院御製

新後古 恋一
みそかあるあるすきうつみまくらかね
ものとうら見人 藤原家隆

新後古 雜中
ふくあるふくあるふくあるふくあるふくあるに
ものとうらて 藤原俊成 道基

新後古 雜中
花ゆゑ人もちうかはとうるもむきて世を
ものとうらて 藤原僧正 定仲

新千 雜上
方のうちに月のるるとうるもの久方の雲
ものとうらせぬ 藤原為家 為氏卿

新拾 恋四
まちうしに文ゆゆゆ久をのいへきの乃時
ものとうれさて 源宗于朝臣

風 雜上
なるあやの風うしに乃うつ教うてゆゆかの
ものとうも色 慶政上人

風 雜上
夕ゆ音とうゆ聖の風乃音にいとうるく
ものとうれき 賀茂重保

風 雜下
何ゆ世見ひつくせなきれ世の秋にはの
ものとうれさ 慶政上人

新千 恋三
恋ゆ音うしにみちに成行うにもの
ものとうれき 後鳥羽院御製

新千 雜上
秋くれ月乃音ゆ月乃音ゆ月乃音ゆ
ものとうれさ 後鳥羽院

新拾 雜上
うるとうれ秋と吹風ゆたうるうるね
ものとうれき 入道二条殿 覚基

新後拾 秋下
明方りゆ秋乃秋ゆや成ゆ人のうるかくれく
ものとうれき 後鳥羽院

新千 夏
さくるひる方にうるとけの郭とうるくいる
ものるるよ 平忠盛朝臣

風 雜下
うるかくにくれゆ世ひうるむきゆ秋ゆうさ
ものうるるさ 永福門院

新後拾 恋二
うるとうれるゆ世をなみくれるのうるも
ものるるき 後宇多院御製

新千 恋二
うるうるるるるるるるるるるるるるるるる
ものうれき 石兵衛督 基氏

新後拾 恋二
逢ゆ世ゆ世ゆ世ゆ世ゆ世ゆ世ゆ世ゆ世ゆ世
ものとうや 前内大臣 俊光

新後古 恋四
今ゆも人世て人乃つとるたいなるくてるゆ
ものとうや 源宣旨

新拾 雜哥
焼心とくゆる方と成ゆうるうるゆ中に
ものかるて 源純氏

新拾 恋二
我ゆるね人とやくゆ旅ねしてるるの月よ
ものかるつん 後光明峯寺入道関白

新拾 恋二
つく夜ゆるるるるるるるるるるるるるる月新よ
ものかるつん 藤原為家 摂家

新後古 秋上
なるるるかくるるるるるるるるるるるるる
ものかるつん 基俊

そうるるるるるるるるるるるるるるるる
ものかるつん 後鳥羽院御歌

新拾 春下
花乃咲て散る時の春の名残をしみ
光明峯寺入道殿太政大臣

風 立
もちろんわらとを変みくゝ
永福門院

新拾 恋一
くゝるものいとりの世に恋しの一ことの
京極為兼

新後古 恋二
恋しらんほとゝぎすの一こえ
後二条為子

風 雜中
なにいとみとせらるほよふこちはとし
後鳥羽院

新後古 雜中
つのうれすりにつもるやうにとやうにとかんとしもの
後二条師忠

新拾 夏
むかしの里の山の富をせなる澤のようなるもの
藤原為家

風 恋四
見もこうなるもしれとしるる形の富をたゝの
藤原為氏

新千 雜
あくへやる我たのしかをいかてりるけさ
後鳥羽院

新後古 恋一
うしれ見しの是のうるはるる
後柏原院

新後古 冬
大井川とゝ舟浮くるれ小倉の山の
俊成卿女

風 秋下
さうてくみるとゝ見てのるとてうふこはの
藤原為家

新千 秋下
村雨の降ける
光明峯寺入道殿太政大臣

新千 秋下
あてこいたに時雨の降りくる音ましか
藤原為家

新後拾 秋下
村雨の降ける
藤原為氏

風 秋下
志賀の心をてゝ人やれい加茂の西の石人やこ
藤原為氏

風 秋下
さう形くかる時雨をとやてくいこ志賀の
中院入道前内大臣

風 秋下
時雨ていの日の影りの人れい心をれ本と志賀の
藤原為家

新拾 秋下
鶴の立ていの天井川の流れいくれらく
藤原為氏

新後拾 秋下
加茂の西の一日の行の引れ心の本の葉て
入道一品親王法寺

新千 秋下
あてこいたに村雨の中やしかの
已心院の摂政太政大臣

新千 秋下
よ早振神代もきくの行りをとられこい
お大内の為定

新後古 秋下
寄れくゝ月を本の行るを為
為定

風 秋下
をつこもかれ一宮の山の中の行り
後鳥羽院の御

風雅下　新後古五四
つの国の波のなごりにいとゞかくしさそふ
花をてゝ春の中と成たちかへ
新千夏　春の国　ちとせ
ちるはけふ花橘もかをるなり
ちとせの春　入道前関白
新千五四　ちとせの春
いろいろのことのはしにうれしかな
ちとせの春　浮上尹　邦省親王
新拾五五　ちとせの春
数なるこゝろをもつ今はこゝろをなぐさめ
ちとせの春　左兵衛督　基氏

百四十八首

新拾補　ふるはゝ水のながれの絶ぬかぎりとゝのふ
せにはやもんん　はゝ平清
新拾五四　谷川のいさゝかなる水ゝ
せにはやもんん　南てゝ乃夜
新拾五四　いるかしに波のあなたをゆく川の
せゝもしまもんん　二条院讃岐
新拾五四　ゆくすえ
せゝのなかりし　惟宗上人
新拾雅上　波川を清しやうてゝ
せゝときまに　英内てゝ五条
新拾五五　ゆくすえ
せゝやすらん　中内て安特
新拾雅　いとせのゆくすえ
せゝいろなれ　源満元朝臣
新千五四　隔てゆく人のこゝろにしたがへ
せゝいろなれ　僧侶二位　尊子
新千雅　ゆくすえとはいはくやさ海きまくに月みてゝ
せゝと成れ　英内てゝ乃西
新千五一　きてゝ
せゝと成れ　中内てゝ夜
新拾五四　うたかたのうきてゝはゝうれはゝ心をゝ
せゝと成れ　夜原仲資　朝臣
新拾雅　とゝのゝこゝろをもつゝ
せゝとなれ

新拾五二
いたづらにこそ
なりぬべけれ
せたとゆるん
前大納言隆房

新後拾別
さまざまとなりぬる別ちにこそ
なりぬとぞ
在原仲資朝臣

新拾哀
なほ人のゆきあはぬ
なりにけるかな
せたとなりぬ
新少将

新千五三
越えぬる道はなほ
なりにけるかな
せたとこそ
右近大将道信母

新千歳
とはるかにみるこそ
なりにけるかな
せたとなりぬ
祐子内親王家伊勢

新千五五
つぎはぎにこそ
なりにけれ
せたとなりぬ
和泉式部

新千五三
なりぬるさいとうれきわはしらそ
せたとなりぬ
紫式部

新拾五一
孫めるねの夢たにえけり
せたとなりぬ
後朱雀院

新後拾五二
なりぬるもしけれわはるこしを
せたとなりぬ
藤原為家

新拾五三
なりぬるさのはしをとわいつせとみ
せたとなりぬ
後鳥羽院

新後拾秋上
きてみてこそなりぬるやけさ月はなれ
せたとなりぬ
藤原俊成

新千秋下
紅のなりぬるこそ
せたとなりぬ
西園寺入道前太政大臣

新拾雜中
おさまるみをうけるる
せたのあり
源氏物語

風雅雜下
あれぬ代にわみちのくの
せたの
光明峯寺入道前太政大臣

新千雜中
もしなとしれぬ
せたの
右大臣

新千雜中
なりぬるはるのあ
せたの
藤原方世

新千雜中
なりぬるはるのあ
せたの
後人

風雅雜上
なりにけるはるのあ
せたの
後照念院関白太政大臣

風雅雜中
逢坂やあるさのせきもなりぬ
せたの
俊人院内大臣

新拾春下
川なりぬるはるのあ
せたの
俊頼

新後拾雜春
いとまなくなりぬるはるの
せたの
[illegible]

新千五三
うまのあしもなりぬるはるの
せたの
中務卿宮雅康親王

新拾雜中
つのくにのなりぬるはるの
せたの
五条成長

新續古五三
しのくれなりぬるはるの
せたの
[illegible]

新後古 雜中
この秋もはかなく暮れぬとて
せてけりや　入道二品親王 永助

新後古 雜一
人とはぬ恨をもそえうかけぬるゆんえを
せて見へし　一条紀伊

新拾 夏
うるはしのよかりしかをそこてつきされ寄らの
せての羽ふるを　和泉式部

新拾 秋上
ゆきまねしはりをもはねかをまちはーて涼
せての羽ふるを　伊勢太神宮

新拾 夏
琴の音にをきかよるれをはるれをとくへてをく
せこれをこれ　後人不表

風 夏
をくれて春をとをこりに月の風にかをく
せこの一こを　院御所

風 夏
をくれをく春のかりふ梢をちの皆にみてを
せこみをとを　進士敦光

風 夏
ゆををちをかををきけい春近よやうて移をを
せこれをこを　菅原隆信朝臣

風 夏
春の頃をーーやををて新月をとをは梢の
せこれをこを　菅原為守女

新拾 夏
心ををこをををををををををををををや是の
せこれをこを　後恵法師

新後拾 夏
ををををは心をををををををををををををを
せこれをこを　後宮中前左大臣

新後拾 夏
新月の月のうをををををををををををををを
せこれをこを　後入内左大臣 實教

新後古 雜上
面ををををををををををををををををををを
せこれをこを　後宮中左大臣

新拾 夏
久方の月のうをををををををををををををを
せこれをこを　道命法師

新千 五五
をををををををををををををををををををを
せこれをこを　後徳大寺左大臣

新拾 夏
五月雨のやをををををををををををををを
せこれをこを　後京極摂政前太政大臣

風 夏
をををををををををををををををををををを
せこれをこを　後鳥羽院御製

新後古 冬
大井川こををををををををををををををを
せこれをこを　順徳院御製

新後古 冬
ををををををををををををををををををを
せこれをこを　後鳥羽院御製

新拾 秋上
大井川ををををををををををををををを
せこれをこを　土御門院御製

新拾 冬
ををををををををををををををををををを
せこれをこを　後堀河院

新後拾 雜春
大井川長流ををををををををををををを
せこれをこを　権律師植輔

新後拾遺 春上

新千載 雅中

新後拾遺 恋

新千載 雅下

新千載 雅上

新後拾遺 恋

新千載 雅中

新後拾遺 秋上

新後拾遺 雅下

新後拾遺 雅上

新後拾遺 春上

新後拾遺 春上

新後拾遺 秋下

新後拾遺 雅下

新後拾遺 恋

風 雅下
新後拾 雅下
風 春中
新續古 雅中
新拾 五五
新拾 雅下
新後拾 秋下
新千 雅中
新續古 雅下
新千 雅中
新續古 雅中
新千 夏

うき春とい吾おろかにてやてうまこ
ひしらにそしもをうるあたはなるとはらに
岸の入れ柳いとゝ考りはいく世のくるゝと
心里のさかりきるもにいとなる方はのう春代いて
うもしさ人日のうもしてもしの数おろなる
うえとまとうとなるしてあ、梅しめるをにして
落ちてをあこやうるなる月の勇いよをせと
信乃人りうるとをとうにみなるたまて
いろにいとぬ京はなうてはうとれあれうと
もてをてう爪をとうの人をもかろれ信あ
いろうとうう春りはやこふなんをにも心をも
ゆゝうう春はやこふなんをにも心をも

とてはるの　藤原秀能
とてはるの　藤原高範
とてうきぬる　大江忠言
とてうきぬん　前大僧正 賢俊
とてうきぬん　定房卿
とくにとてみる　藤原仲資 朝臣
とくにとてとい　貴之
とくに世もの　前右兵衛督 乃成
とくに成なわ　青門院 御製
とゆゝとゝもやと　俊定
とまねいをそ　入道 前太政大臣
とまるあい　藤原信正 左兵

新千 雅中
新續古 雅
新拾 二百
新續古 冬
新千 秋上
新續古 秋下
新後拾 後
新拾 秋上
新續古 雅上
新千 雅下
風 春
風 雅上

みをしかかりていなるれこうれいるうこ春ま
世ゆりうりうり新乃うとうとこ世まて
あにうしもしゆ春れよりをまるれね後のを
とて信乃南あこゆる春りて雪代てとゆ
りてうの京月これりのいやまに先うりまう
雪ををうね日数りなくしたの乃月の
と月乃新とりこれはりてまはゆくもう
こいゆるうる雪はもしゝなり春に物あこゆ
うしあるを井の月乃雨新しれ橋川乃ゆり
数りなれ見りて心里乃れをまれなる
いゆるんはりこうりうくいこはりにちゆ世を
れ乃春代いとにゝゝゆ乃はるとや

とまれやいろ　検校 長成
とまんとう景　後三条院 為子
とゆのうれ　西園寺 公経
とまのうれ後　西園寺 公経女
とゆのうれ後　参議 乃秀
とゆのうれ　家賢門院
とゆのあまれ　皇太后宮 大夫俊成女
とゆりてさう　真観上人
とまし如乃　大僧正 忠性
とまをとうと　左近大将
とまてうらん　藤之

新千 雅中
行みのりの命の松人つをよみ侍りける堀川
天皇御代賢
新千 雅中
つまれしやはらくしかたはなはなはなはなに行て
大江知行
新後拾 雅下
をくうとうそにみををたのうまーー狂
如覚法師
新続古 雅中
まいよのうか人いたはしたんねるるねよ
惟宗行能
新後拾 雅下
いよ夏はなはなはあまーをれるをはうはなみよりり
平重基
新拾 雅中
をはりいよいよ今をやはなはなはなはな

新拾 秋上
新後古 秋下
同 反
新後古 雜
新後古 雜中
新千 慶
新後古 賀
新後古 賀
新千 秋上
新千 秋上
新拾 秋下

時雨のこゑもとかぬ袖のつゆ
世にふるかぬ秋のさびしさ
小山田やいなばの山のうすくもり
雲のかたぶく月のかげ
音ずれて日数の程をあらしの風
夢の世をうつつの夢のうつりゆく
まつりごとのかがみをかけてかつ
我が君の千歳の末の末代を月
万代を月のかつらの数ぞ
君の代は心の池の水の月
雲もなほ心をおくらしもとぶく
あかしの浦のあさぎりの
ありてなき秋のくれの中にさ

とある月の下の
とある月の下の
とある月の下の
とある月の下の
とある月の下の
とある月の下の
とある池の
とある池水
とある月の
とある月の
とある月の
とある月の

後光明照院前関白左大臣
勝定院殿 太政大臣
足利尊氏 将軍
前中納言 雅孝
定頼卿
権中納言 為明
是心院入道 前関白左大臣
後二条関白 家隆
後光厳 天皇
権中納言 為明
前関白左大臣 定宗

新拾 秋下
新拾 秋下
同 秋上
新千 秋上
新千 秋上
新千 秋上
新千 秋下
新拾 秋上
新拾 秋下
新拾 秋上
新拾 秋上

池水のうつるかげかとうつて秋の夜
久方の中なる月の久しきを
くてはうつる久しきを奥心の
保ゆるうつる中にあれ風の
ひかりの心のくもりなくまた
いさ川のうつせの水のきよきを
四方の長月の夜の月の加
月の光のかげのうつるを
小山田のいなばの山のあとの
一村の雨のあとの
長夜の月のかつらの
ひかりの光のうつるを

とある月の新
二条太皇太后宮 藤原信実
とある月の新
とある月の新
入道二品親王 守国
仁照会院 関白左大臣
とある月の新
武門の名
とある月の新
後伏見 行家
とある月の新
正二位隆教
とある月の新
後光厳 天皇
とある月の新
中宮の名
とある月の新
前権僧正 慈慶
とある月の新
平高宗
とある月の新
後円院 中納言

新後拾 秋下
あまの川 雲のこずえ みえわたる
秋の月 新 仲製

新後拾 秋下
夜もしれる 雲もなかれる 山の音に
たつたの嵐 秋の月 新 法勝寺関白

新続古 秋上
あらしふく 雲のうすぎり 夜のつき
さやかなりけり 秋の月 新 亀山院製

新千 秋上
うつりゆく 月も物思ふ 秋にいま
なほ物思ふ 秋の月 新 五大尼

新続古 秋上
ながめやる 秋の月 人の心
なれぬるかな 秋の月 新 後宇多院御製

新拾 秋上
月をなほ 人の心 なれぬるか
秋の月 新 二条院讃岐

新続古 冬
ながめつる 秋の月 人の心
なれぬるかな 秋の月 新 寂蓮法師

新千 秋上
山陰に 雪のこずえ 消えやらで
月の光 冬の月 新 後二条師忠

新拾 秋上
月をなほ 人の心 なれぬるか
秋の月 新 二条院讃岐

新続古 冬
ながめつる 秋の月 人の心
なれぬるかな 秋の月 新 寂蓮法師

新千 秋上
山陰に 雪のこずえ 消えやらで
月の光 冬の月 新 後二条師忠

新拾 雜中
山もとに 雪のこずえ 消えやらで
月の光 冬の月 新 後二条師忠

新拾 雜中
よしの山 雪のこずえ 消えやらで
月の光 冬の月 新 後二条師忠

新千 雜下
かれ行く 何いろもなし 人の心
なれぬるかな 秋の月 新 後二条師忠

新拾 雜中
ながめつる 雪のこずえ 消えやらで
月の光 冬の月 新 後二条師忠

新続古 雜中
ながめつる 雪のこずえ 消えやらで
月の光 冬の月 新 後二条師忠

新拾 雜中
山もとに 雪のこずえ 消えやらで
月の光 冬の月 新 後二条師忠

新後拾 雜上
ながめつる 雪のこずえ 消えやらで
月の光 冬の月 新 後二条師忠

新続古 雜上
ながめつる 雪のこずえ 消えやらで
月の光 冬の月 新 後二条師忠

新拾 雜上
ながめつる 雪のこずえ 消えやらで
月の光 冬の月 新 後二条師忠

新千 雜下
ながめつる 雪のこずえ 消えやらで
月の光 冬の月 新 後二条師忠

新拾 雜中
ながめつる

新後拾 冬
ひさしき海辺の月をれ村雨のそめをとよはね
みくまの神主 定家

新撰古 秋上
月新乃雪を法ぞわの面をとに物思もし
ゆふつゆあみとちうの法華三代まあしあるる
左大臣

新撰古 神
ゆふつゆあみとちうの法華三代まあしあるる
藤原為家朝臣

風 雅上
梅花うるはしいうらねとうぐいす
藤原為家朝臣

風 雅下
ひやとまちに波乃しらくもいくら
二条院讃岐

風 雅下
世代うせ品多つとを秋心乃あらうりいく
権僧正慈信

新千 雅上
ちうの通まやそうれりの多と月乃たにて
白河法皇

新千 雅下
心里とさんしてなまう品ちうんかれとてちう
法印能信

新拾 哀
ゆめまに品しやちんやさうへ文ゆもれ
藤原行春

新後拾 雅春
立ち乃れ乃ゆ橋乃うりうを今にあてうね
源基時朝臣

新後拾 雅下
月波さい煙ゆちう心里ちいうたうはまし
藤原宗光

新後拾 雅下
年をるね今一しかと品しもつりくはる
紀乃法師

新撰古 雅中
乃まれ月のまちをなうう品ゆ心りり
常仁親王

新千 雅下
乃うちちのかりて乃心田ちとたの三号一尾を
藤原為顕

新拾 雅中
ちとうをとりて浮はくなりのゆ
藤原朝村

風 雅上
ちうくにあるれ心里に月ふはくらわ
恵中法親王

新撰古 秋下
うくにあるる里ゆくちゆ春乃秋や
藤原為邦朝臣

新撰古 雅中
我春ゆゆしくうれなる宋りゆれ留てて
藤原為定朝臣

新後拾 雅上
ちうの人乃ちいうちん心里ゆ品しくわを
藤原信正 宣雅

新拾 雅中
ゆちゆ春乃有れ春ちくくゆ
藤原乃家

新撰古 雅上
心乃濁り真とゆ春乃ちゆすくゆゆちゆ月の
藤原為家朝臣

新撰古 雅上
秋ちゆれ乃れゆくくゆ神を可や
法華院助

新拾 哀
天くゆ代ゆやそ濁かちゆ波乃青に風しちうなる
藤原実躬朝臣

新後拾 雅上
ちくくとをいとゆ可方にそくはゆ心ちゆゆし
藤原為俊朝臣

新千秋上　久方の月の宮なる姫松の　人の心を
風秋中　心里に月をつやかまるらん　人やこよなく
新続尺　うら枯の秋かぜふいて　なびく
新続古五四　夫木　きたうすゝ吉野川　流てくるや
新千五二　ゆみ人の　さしくるあしの　ゆくかく　恋れ
新拾賀　我夫いとのゝえ　ゝ年ゆへて　民れ七らの
新古慶　いたるをさしの　ちぬ代よ　あしを　今日　祝
風新下　あまいさ　れ　かつ　あれ　て　よ　ゆ
風新下　今　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
風赤　神ち心　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
風新上　ち　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
新後拾　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
撰　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

撰天仁元　長家
崇徳院御製
前大僧正　頼仲
非藤伯　頼仲母
順徳院御製
法華経　四文字
藤原俊成
後鳥羽院御製
後鳥羽　道元
後鳥羽院御製
只故法師
源頼春

新拾　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
友　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
風秋上　夜の　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
新拾賀　夫　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
新拾赤　神かぜや　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
風賀　久方や　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
新続古五四　今　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
新後古春上　ま　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
新後古春下　し　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
新後古羇　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
新続古五四　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
新千秋上　入り　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
新後撰　か　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

中納言　基成
後鳥羽院御製
藤原俊光
免光院入道
前関白太政大臣
後二条
中務卿
親王
藤原為
撰人仁
藤原量
撰人
藤原俊宣
藤原

新拾 雅中
新千 秋
新拾 雅上
新後古 文
新後古 賀
風 秋
新拾 賀
新拾 慶
新拾 雅下
風 三
新千 慶
風 一

まつかぜ　ふきこしのゝ　はなすゝき　ほにいでぬ　ほどもしらぬ　あきの　ゆふぐれ

人しれぬ　ゆきのしたにも　ねをはやみ　ほにいでぬ　ほどもしらぬ　あきの　ゆふぐれ

ちりやすき　はなのしたにも　ねをはやみ　ほにいでぬ　ほどもしらぬ　あきの　ゆふぐれ

ゆふぎりの　たちのまがきの

其中書屋